J2EEの新しい動向

稚内北星学園大学 丸山不二夫

Agenda

- 1. J2EEとは何か?
- 2. EJBとコンテナ
- 3. J2EEとWebサービス / Grid
- 4. J2EEとビジネスプロセスの統合

1. J2EEとは何か?

- J2EEの誕生
- インターネットの爆発とJ2EE / Webサービス
- n-tier モデルの成立
- サーバサイド・プログラミングのメリット
- コンポーネント/コンテナ モデルEnterprise Java BeanとApplication Server
- コンポーネントの配備 (deploy) と 宣言的プログラミング
- J2EEを構成する要素技術

J2EEの誕生



Mark Hapner

J2EEの前史

 1997年4月12日 Sunは、JCP(Java Community Process)を使った企業向けの Javaプラットフォームの開発開始をアナウン ス。

サーバサイドのコンポーネントモデルを定義して、Javaアプリケーションサーバにベンダーに依存しないJavaインターフェースを提供することを、Enterprise JavaBean APIの中心目標に。

J2EEの誕生

- 二年後の1999年10月、Enterprise Java API の仕様が完成。多くのベンダの実装が利用 可能に。
- 特に、Enterprise JavaBeans(EJB) は、Java アプリケーションサーバのデファクト・スタン ダードなコンポーネントモデルになる。
- J2EE = JavaTM 2 SDK, Enterprise Edition

J2EEの発展

●1999年 12月17日 J2EE 1.2



●2001年 9月17日 J2EE 1.3



●2003年 11月24日 J2EE 1.4

インターネットの爆発と J2EE / Webサービス。



1993年 1月 WWWサービス

-3, Home

2, Back

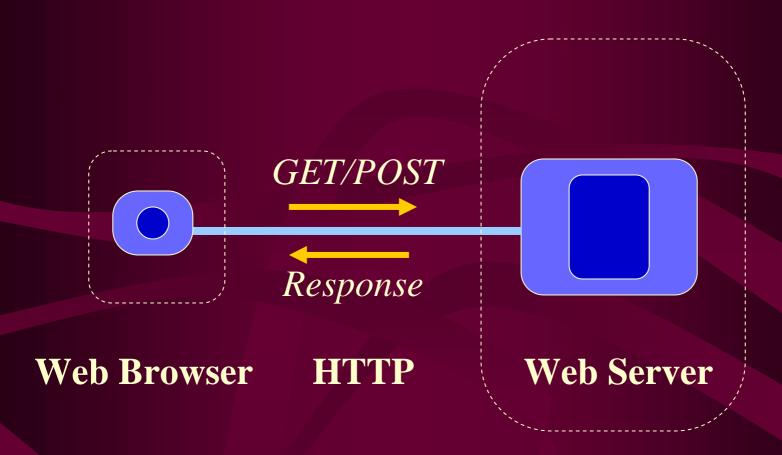
NCSAのWhat's New ページの容量

```
1995年12月
                 1994年12月
                                   1993年12月
             KB
                            448KB
                                              40KB
1995年11月
                 1994年11月
                                   1993年11月
             KB
                            163KB
                                              33KB
1995年10月
                 1994年10月
                                   1993年10月
             KB
                            257KB
                                              21KB
1995年 9月
             KB
                 1994年 9月
                                   1993年 9月
                             76KB
                                               24KB
1995年8月
                 1994年8月
                                   1993年
             KB
                             87KB
                                          8月
                                               20KB
1995年7月
                 1994年 7月
                                    1993年 7月
             KB
                             65KB
                                               18KB
                                   1993年 6月
1995年 6月
         1363KB
                 1994年 6月
                                              11KB
                             147KB
1995年 5月
                 1994年 5月
         1084KB
                             97KB
1995年 4月
                 1994年 4月
          797KB
                            102KB
                 1994年 3月
1995年 3月
          872KB
                             93KB
1995年 2月
                 1994年 2月
          645KB
                             71KB
1995年 1月
                 1994年 1月
          522KB
                             58KB
```

インターネットの爆発



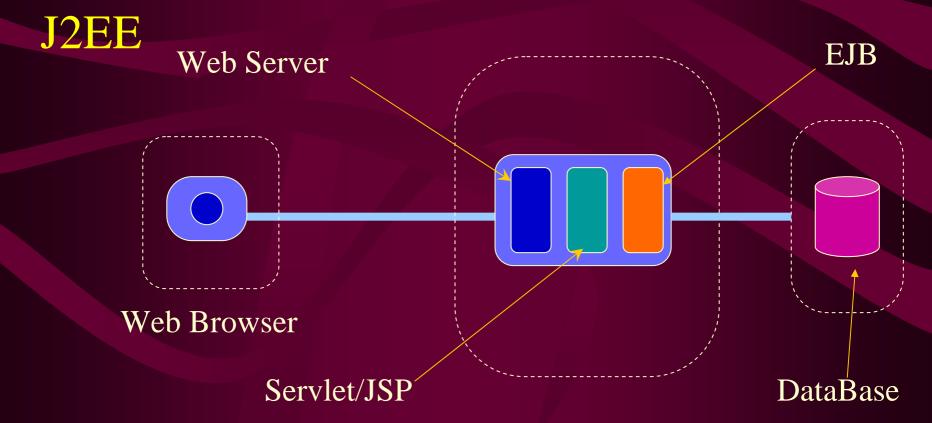
Web Browser & Web Server



サーバ・クライアントモデル

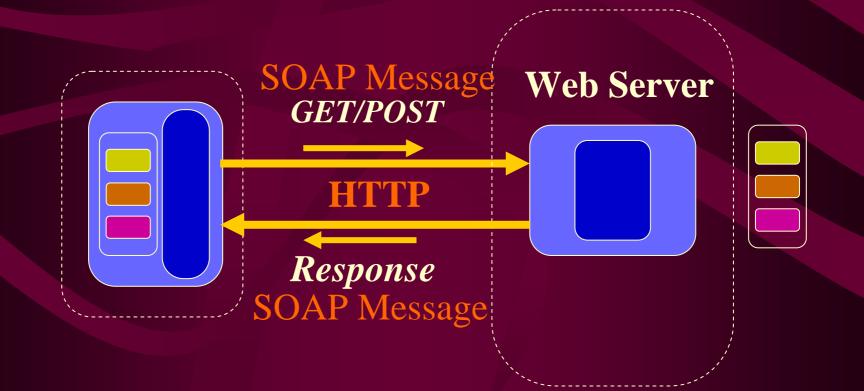
J2EEとは?

汎用クライアントとして Webブラウザを利用する サーバ・クライアント・モデル



Webサービスとは?

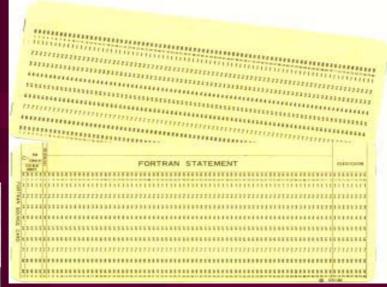
汎用サーバとして Webサーバを利用する サーバ・クライアント・モデル



n-tier モデルの成立

入出力チャンネルから ネットワーク上でのリソースの共有へ

3270端末エミュレータ



ENGLISH FOR THE COMPUTER AGE & 9

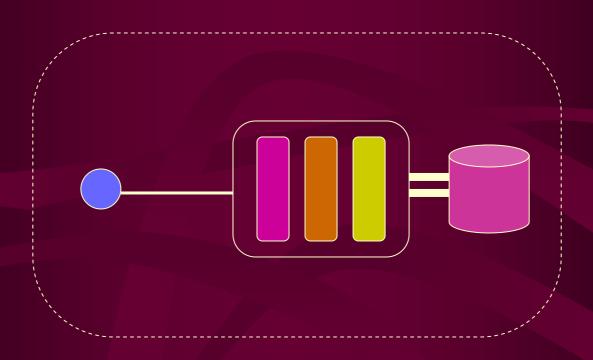
IBM360

ASR-33





1-Tier モデル



入出力端末・チャンネル



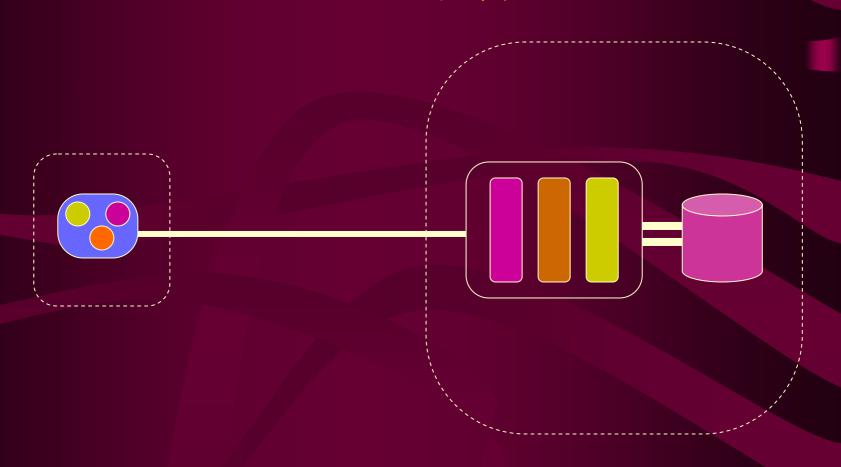
Sun3/260 1987**年**



VAX-11/780(1977)

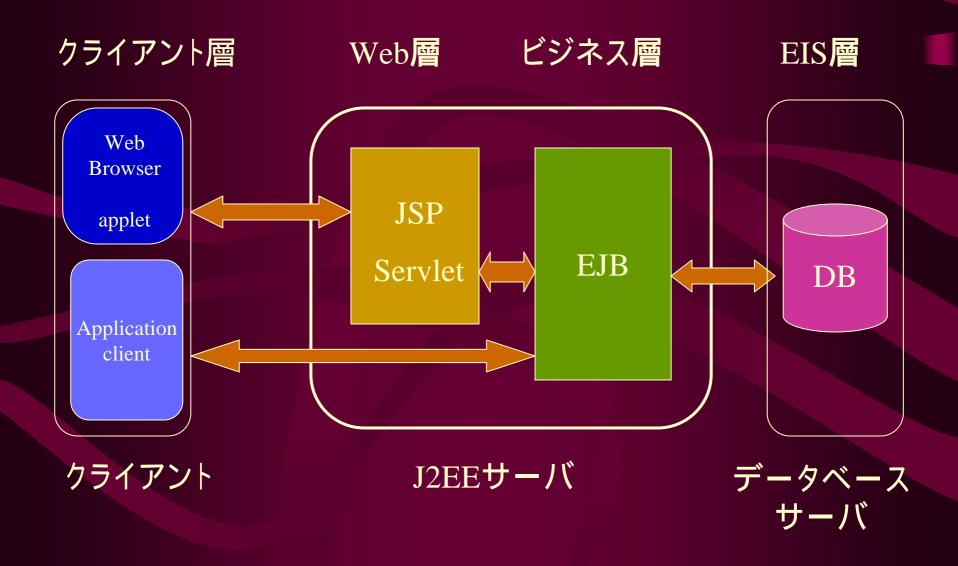


2-Tier モデル

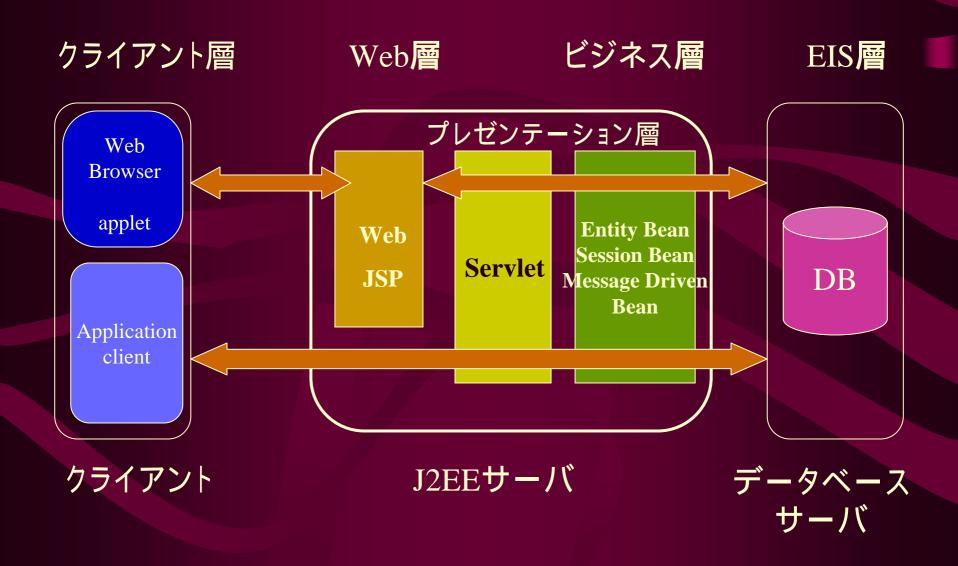


サーバ・クライアントモデル

3-Tier モデル J2EE



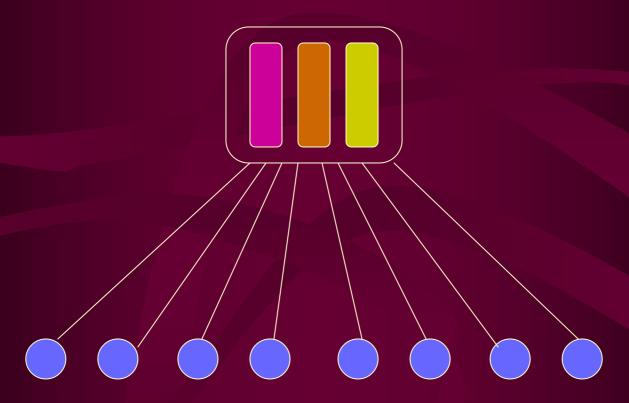
n-Tier モデル J2EE



サーバサイド・プログラミングのメリット

1-Tier モデル

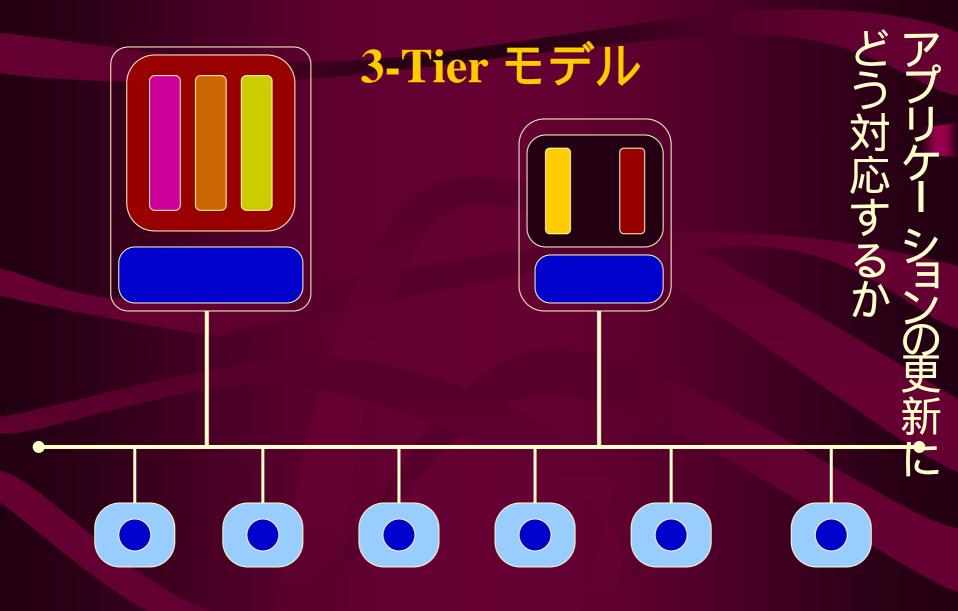
センターホスト型



ホストの側がアプリケーションを更新すればいい



サーバ・クライアント双方の変更が必要



アプリケーション・サーバ側の変更だけでいい

コンポーネント/コンテナ モデル Enterprise Java Beanと Application Server

ComponentとContainerの役割

- Component
 - 「ビジネス・ロジック」への集中
 - コンポーネントの分離と連携
 - コンポーネントの「再利用」
- 開発者の役割分担
 - Creation / Component Provider
 - Assembly / Application Assembler
 - Deployment / Deployer

Container

- ネットワーク接続
- トランザクション処理
- ライフサイクル管理 等の定型的な処理の自動化

J2EEの表面には 見えない土台としての J2EEコンテナ



コンポーネントのメリット 「ビジネス・ロジック」への集中

```
public class BankBean implements SessionBean {
 public void transferToSaving(double amount) {
   checkingBalance -= amount;
   savingBalance += amount;
   try {
     updateChecking(checkingBalance);
     if (checkingBalance < 0.00) {
       context.setRollbackOnly();
       throw new InsufficientBalanceException();
     updateSaving(savingBalance);
   } catch (SQLException ex) {
     throw new EJBException (.....);
```

多様なタイプのコンポーネント Enterprise Java Bean

- Stateless Session Bean
- Statefull Session Bean
- Entity Bean
- Message Driven Bean

 Stateless Session Bean with Web Service Endpoint J2EE1.2



J2EE1.3



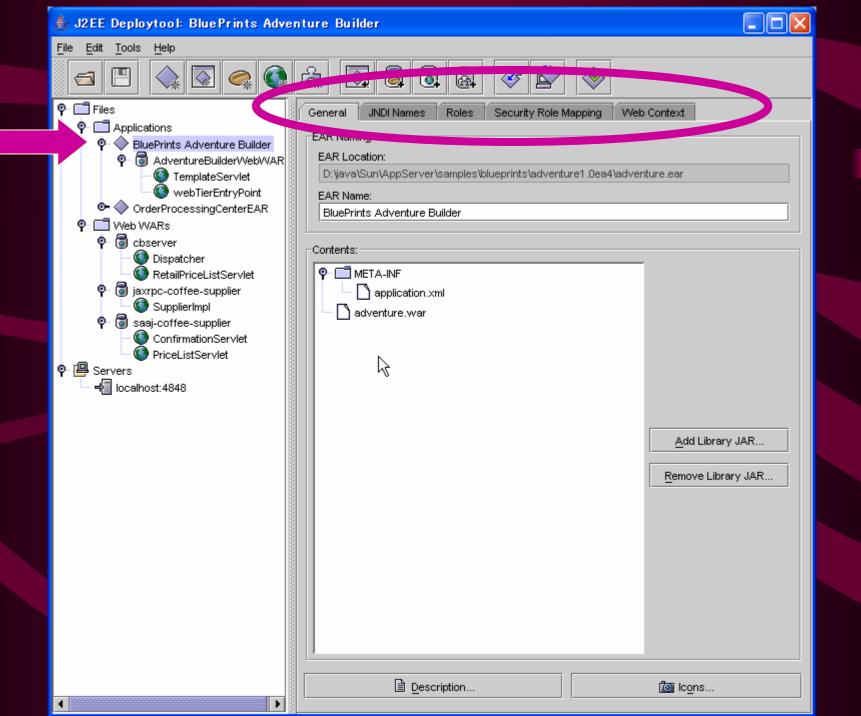
J2EE1.4

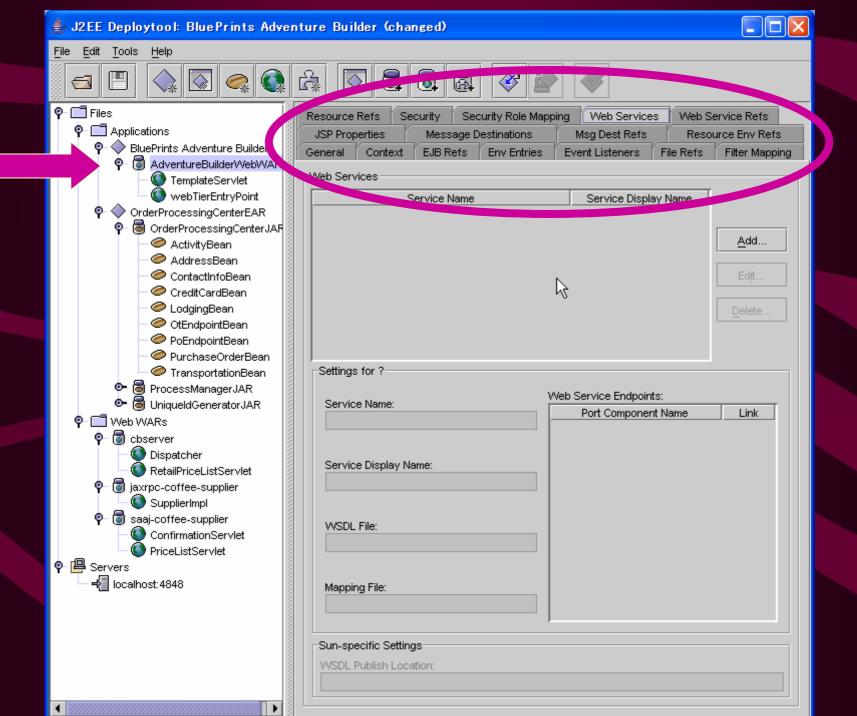
多様なデザイン・パターン J2EE Design Pattern

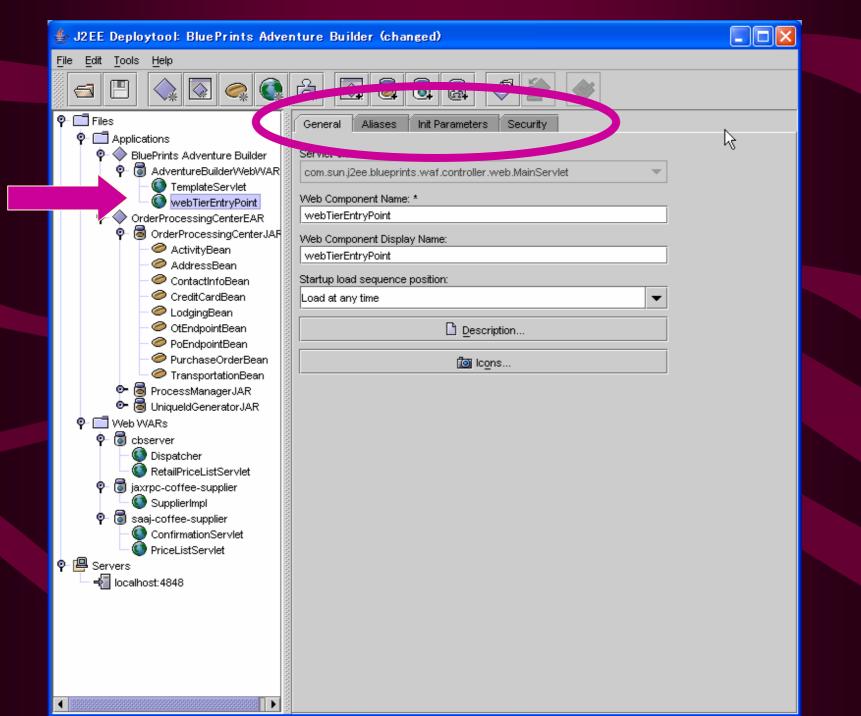
- Front Controller
- Intercepting Filter
- Composite View
- View Helper
- Dispatcher View
- Business Delegate
- Session Façade
- Data Access Object

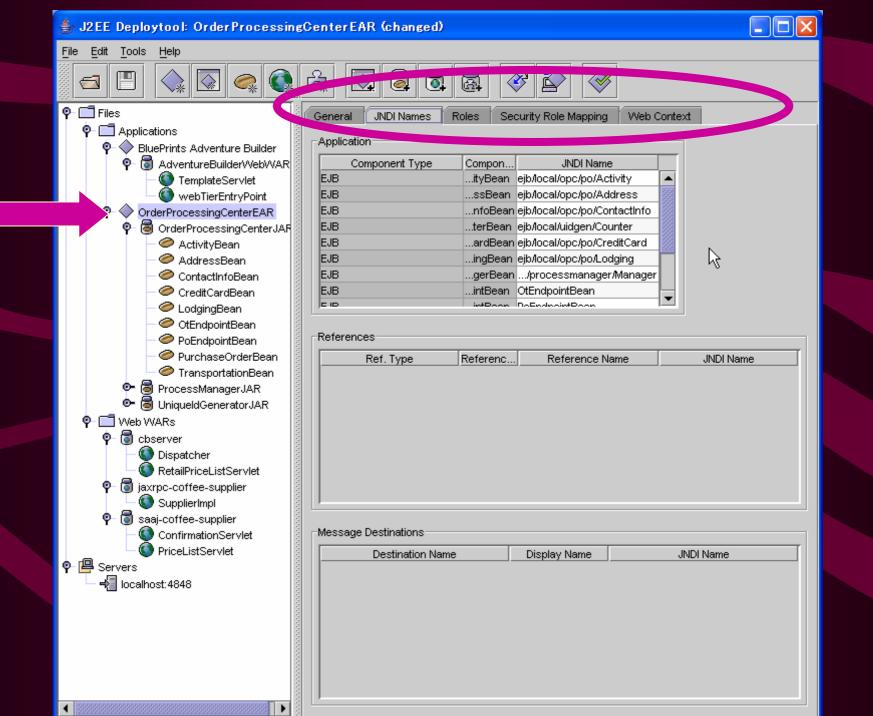
- Service Locator
- Transfer ObjectAssembler
- **Value List Handler**
- Composite Entry
- Transfer Object
- Service Activator
-

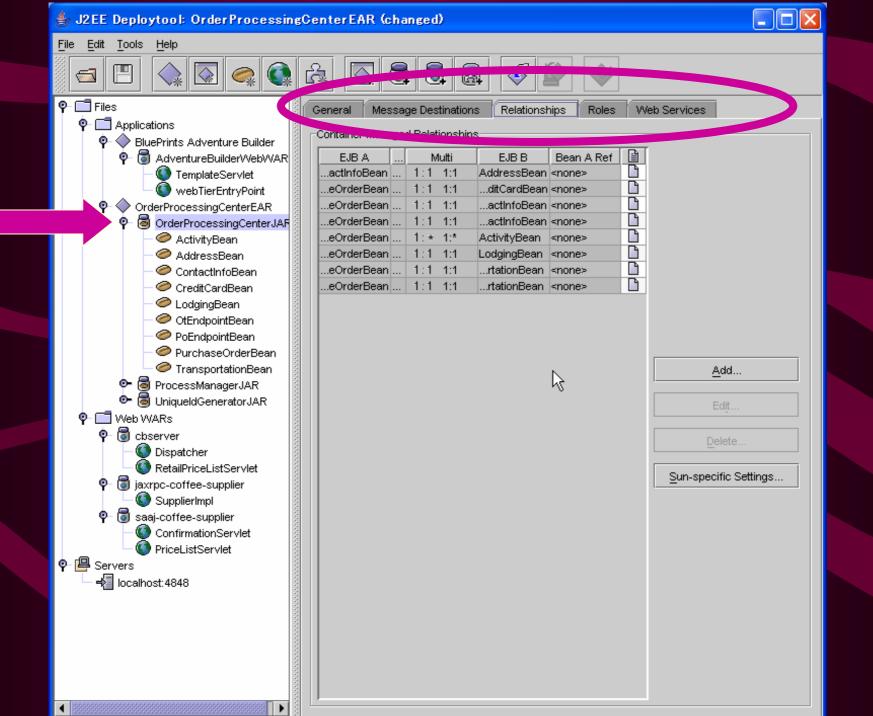


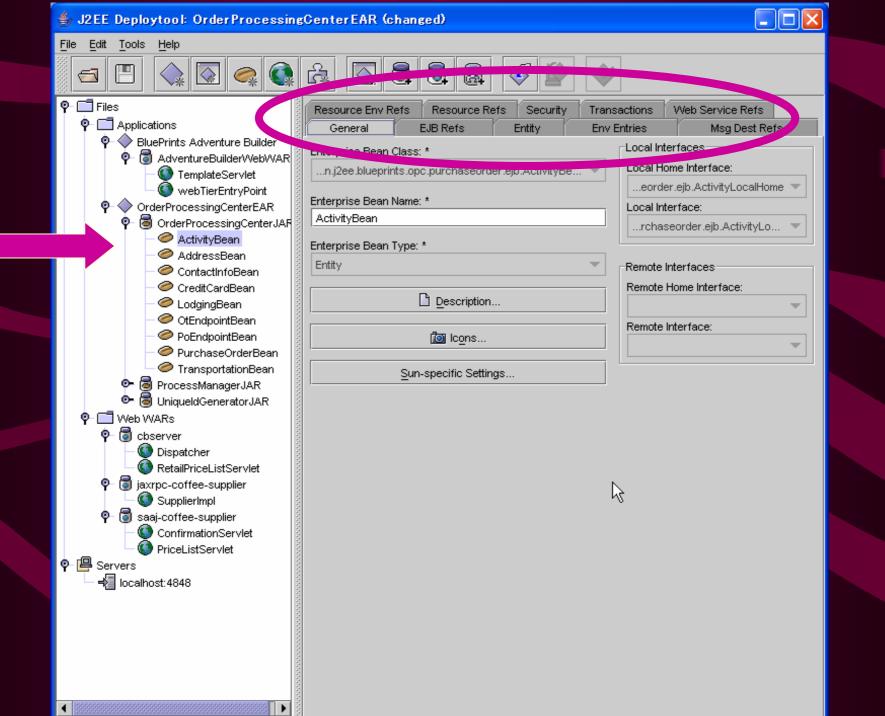








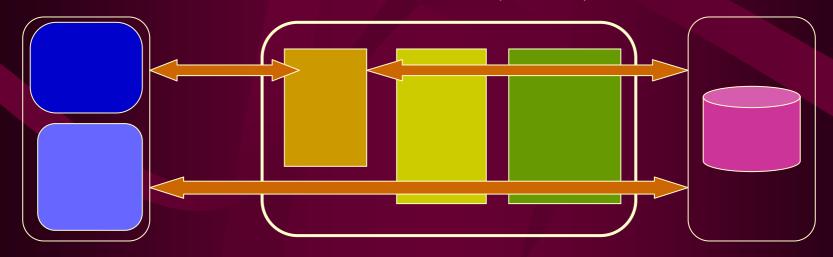




J2EEを構成する要素技術

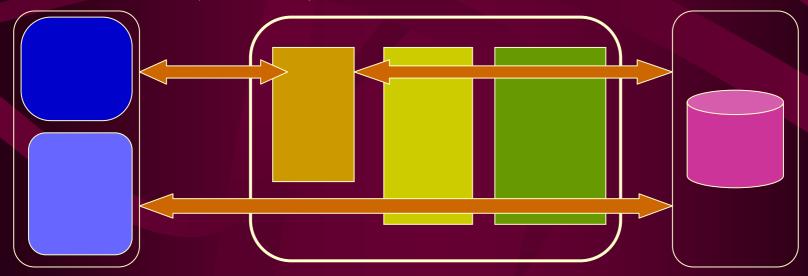
J2EEを構成する要素技術 (1)

- Enterprise JavaBeans Technology
- JDBCTM API
- Java Servlet Technology
- JavaServer Pages (JSP) Technology
- Java Message Service (JMS)
- Java Transaction API (JTA)



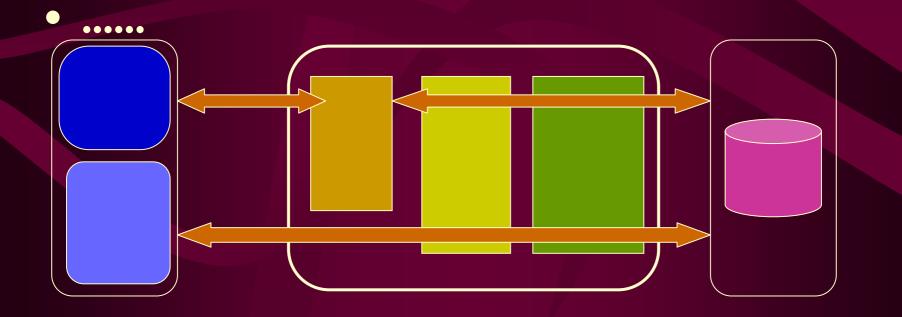
J2EEを構成する要素技術 (2)

- JavaMailTM Technology
- JavaBeans Activation Framework
- Java API for XML Processing (JAXP)
- J2EE Connector Architecture
- Java Authentication and Authorization Service (JAAS)



J2EEを構成する要素技術 (3)

- Web Service
- Java APIs for XML based RPC(JAX-RPC)
- Java APIs for XML Messaging(JAXM)
- Java APIs for XML Registry (JAXR)
- Java Server Faces



2. EJBとコンテナ

- J2EEのContainerの役割
- EJBの3種類の定義ファイル
- J2EE Containerのメカニズムを考える
 - -- EJBの3種類の定義ファイルの問題 --
- EJB: Entity Bean の役割
- J2EE1.3 EJB2.0での永続性管理の自動化
- J2EE1.3 EJB2.0 CMPサンプル
- J2EE1.3 JMSメッセージングの導入

J2EEのContainerの役割

J2EEでのコンテナのメタファー

- コンテナは、コンポーネントの「いれもの」。 コンテナは、最初は空。
- コンテナは、外部との境界に、HomeとRemoteという二つのインターフェースを持っている。
- Homeインターフェースを通じて、コンテナにコンポーネントを作ったり、消したりすることが可能。
- コンポーネント内のメソッドは、EJBクラスで定義され、Remoteインターフェースを通じて呼び出される。

EJB コンテナとEJBコンポーネント

EJBコンテナ

Remoteインターフェース

transferToSaving

```
public class BankBean implements SessionBean {
   public void transferToSaving(double amount) {
   .....
}
```

Homeインターフェース

EJBコンポーネント

create

EJBの3種類の定義ファイル

EJBの3種類の定義ファイル

Remoteインターフェース: Bank.java

```
public interface Bank extends EJBObject {
   public void transferToSaving(double amount)
      throws RemoteException, InsufficientBalanceException;
   .....
}
```

Homeインターフェース: BankHome.java

```
public interface BankHome extends EJBHome {
   public Bank create(String id)
     throws RemoteException, CreateException;
}
```

EJBクラス: BankEJB.java

```
public class BankBean implements SessionBean {
   public void transferToSaving(double amount) {
   .....
}
```

EJBの三つの定義ファイル(1)

• Remoteインターフェース

```
public interface Hello extends javax.ejb.EJBObject {
    public String sayHello() throws
        java.rmi.RemoteException;
```

EJB実装クラスの外部へのインターフェース

EJBの三つの定義ファイル(2)

• Homeインターフェース (これもRemoteである) コンテナへのインターフェース

Homeインターフェースのcreateメソッドは、 Remote インターフェースを返す。

EJBの三つの定義ファイル(3)

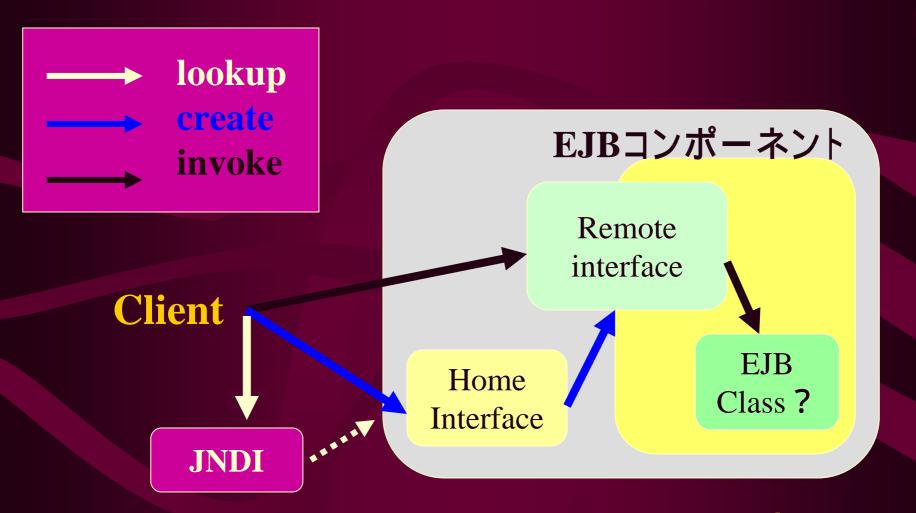
EJBクラス

```
public class HelloEJB implements javax.ejb.SessionBean {
    public String sayHello() {
       return "Hello World!";
    public void ejbCreate() { }
    public void setSessionContext(SessionContext sc) { }
    public void ejbRemove() { }
                    EJBの実装クラス
```

クライアントからの呼び出し

- 1. JNDIでHomeインスタンスを獲得する。
- 2. Homeインスタンス上で、createメソッドを呼び 出してコンテナ内にコンポーネントを生成する。
- 3. createの返り値がremoteインターフェースを実 装したコンポーネントのインスタンスである。
- 4. コンポーネントのインスタンス上で、remoteインターフェースのメソッドをinvokeする。

Clientから見たJ2EEのコンテナと EJBの三つの定義ファイル



EJBコンテナ

J2EE Containerのメカニズムを考える

-- EJBの3種類の定義ファイルの問題 --

EJBの三つの定義ファイルの問題 1

- 二つのRemoteインターフェースがあるが、 クラスは一つしかない。
- 二つのRemoteインターフェースを実装した クラスは、どこに定義されているか?



二つのインターフェースに対応する、実装クラスは、自動的に生成されている。

Homeインターフェース

```
public interface HelloHome extends javax.ejb.EJBHome {
    public Hello create() throws
        java.rmi.RemoteException, .....;
}
```

RMI/IIOPでの実装

Remoteインターフェース

```
public interface Hello extends javax.ejb.EJBObject {
    public String sayHello() throws
        java.rmi.RemoteException;
```

RMI/IIOPでの実装

```
public class HelloEJB_EJBObjectImpl extends
    PortableRemoteObject implements Hello {
    public String sayHello() throws RemoteException {
      return "Hello World!"; これでは駄目!
    }
    EJBクラスの役割は?
```

EJBの三つの定義ファイルの問題 2

- EJBクラスは、Remoteインターフェースを持っていない。
- RemoteインターフェースのsayHelloメソッドを実装したように見えるEJBクラスは、形式的には、そうなっていないのは何故か?



Remoteの実装クラスは、EJBクラスから生成されている

EJBクラス

```
public class HelloEJB implements javax.ejb.SessionBean {
    public String sayHello() {
        return "Hello World!";
    }
```

```
javax.ejb.SessionBeanはRemoteか?
```

```
public interface SessionBean extends EnterpriseBean {
    ......
}

public interface EnterpriseBean extends Serializable {
    ......
}
```

EJBの三つの定義ファイルの問題 3

RemoteインターフェースのsayHelloメソッドを、EJBクラスのsayHelloメソッドが実装したものでないなら、二つのsayHelloメソッドはどういう関係なのか?



• EJBクラスのメソッドは、自動生成された Remoteインターフェースの実装クラスの同じ 名前のメソッドの中で、そのまま利用される。

同名メソッドの書き換え

```
public String sayHello() throws RemoteException {
// Remoteメソッドである。
// 元のEJBクラスのインスタンス
   HelloEJB helloejb = (HelloEJB)
// ejbLoad等メソッド呼び出しの前処理
   container.preInvoke(...);
// 元のEJBクラスのメソッド呼び出し
   String s = helloejb.sayHello();
// ejbStore等メソッド呼び出しの後処理
   container.postInvoke(...);
```

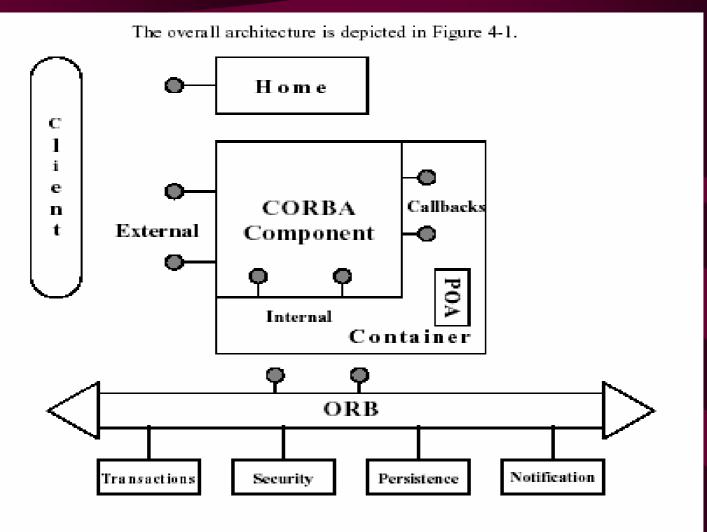
EJBクラスのメソッドのはさみ込み

return s;

J2EE コンテナの特徴的手法

- ソースからの別のソースの生成
 - CORBA: IDL
 - J2EE: Java Interface
 - JAX-RPC: WSDL / Java Interface
 - GT3 OGSI : GWSDL
- メソッドの書き換え
- 元のメソッドの挟み込み
 - Transaction
 - Database との同期
 - Life Cycle 管理

CORBA Container



EJB: Entity Bean の役割

Entity Beanの発想

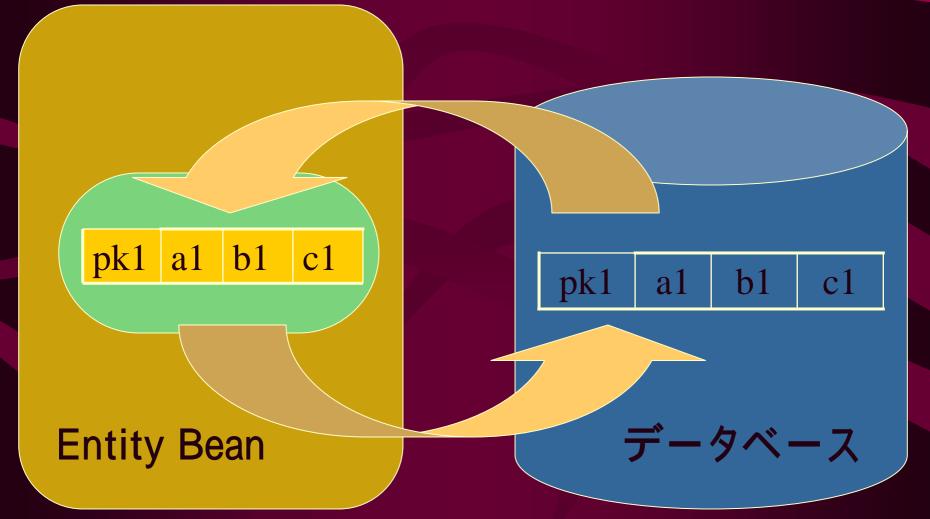
メモリー上の一時的な情報である Entity Bean インスタンスと

メモリー外部の永続する情報である データベースの一行とを

システマティックに結びつける

一時的な情報

永続する情報



Entity Bean インスタンスと データベースの一行とが システマティックに結びついている



データベースを意識せずに Beanのインスタンスを考えていればいいので、 ビジネス・ロジックに集中できる。 EJB: create

メモリー上に新しいインスタンスを生成し、データベース上に新しい行を挿入する。

SQL: INSERT

create

Entity Beanとデータベース

ejbCreate

pk1 a1 b1 c1

新しいインスタンスと新しい行の生成

pk1 a1 b1 c1

ejbLoad & ejbStore

ビジネス・メソッドの呼び出しの前後に メモリー上のインスタンスと、 データベース上の行との同期を行う。

ejbLoad SQL: SELECT

ejbStore SQL: UPDATE

Entity Beanとデータベース

既存の行の内容に 既存のインスタンスを修正

ejbLoad

pk1 a1 b1 c1

primaryKey="pk1"

pk1	a1	b 1	c1
pk2	a2	b2	c2
pk3	a3	b3	c3

Entity Beanとデータベース

ejbStore

pk1 x1 y1 z1

primaryKey="pk1"

既存のインスタンスで既存の行を修正

pk1	x 1	y1	z 1
pk2	a2	b2	c2
pk3	a3	b3	c3

EJBのメソッドとSQLの命令の対応

• ejbCreate insert

ejbRemove delete

ejbLoad select

• ejbStore update

ejbFindByPrimaryKey select

BMP (Bean Managed Persistency) とは?

ejbCreate insert

• ejbRemove delete

ejbLoad select

• ejbStore update

ejbFindByPrimaryKey select

これらの対応を、 プログラマが実装するのが BMP。

永続性管理の自動化

J2EE1.3

J2EE1.3 EJB2.0でのCMP (Container Managed Persistency)

現実のプロジェクトで、EJBコンポーネントの永続性を管理する最良の方策は、永続性管理を自動化することである。

J2EE1.3 EJB2.0でのCMPの特徴

- Abstract Class
- Abstrct Accessor
 - テーブルの項目を表現するPersistentフィールド(cmpフィールド)は、abstract なsetter/getterによってアクセスされる。
 - テーブル間の関係を表現するRelationフィールド(cmrフィールド)も、abstract なsetter/getterによってアクセスされる。

J2EE1.3 EJB2.0でのFinder/Select

- Finderメソッド
 - (Local)Homeインターフェース上で"find"で始まる名前をもつ
- Select メソッド
 - EntityBeanの定義で、"ejbSelect"で始まる名前をもつabstractメソッド
- ともに、EJB-QLを通じて、Deploy時に Deployment Descriptorに定義される。
- Homeメソッド
 - Beanのインスタンスに共通するビジネス・メ ソッドを定義する。(static method と似ている)

J2EE1.2 EJB1.1から J2EE1.3 EJB2.0への移行

- EntityBeanをabstract Classとして実装する
- Localインターフェースを利用して実装する
- cmpへのsetter/getterメソッドをabstractにする
- テーブルの関係を表現するSQLコードを、cmr のabstractなsetter/getterで置き換える
- FinderとSelectメソッドを、EJB-QLを利用して 追加する
- Deploy時に、テーブル間の関係を定義する

J2EE1.3 EJB CMPサンプル

「スポーツ名簿」サンプル

• リーグテーブル (LeagueBeanTable)

leagueId	name	sport

• チームテーブル (TeamBeanTable)

teamId	name	city

• 選手テーブル (PlayerBeanTable)

playerId name	position	salary
---------------	----------	--------

テーブル間の関係

• リーグテーブル (LeagueBeanTable)

・チームテーブル (TeamBeanTable)

• 選手テーブル (PlayerBeanTable)

「選手テーブル」に対応した CMP Field

```
public abstract class PlayerBean implements EntityBean {
  // cmp:テーブル項目を定義するSetter/Getterのペア
  // 項目「選手ID (playerId)」の定義
  public abstract String getPlayerId();
  public abstract void setPlayerId(String id);
                                          CMP Field
  // 項目「選手名 (name)」の定義
  public abstract String getName();
  public abstract void setName(String name);
  // 項目「ポジション (position)」の定義
  public abstract String getPosition();
  public abstract void setPosition(String position);
  // 項目「年俸 (salary)」の定義
  public abstract double getSalary();
  public abstract void setSalary(double salary);
```

name

salary

playerId

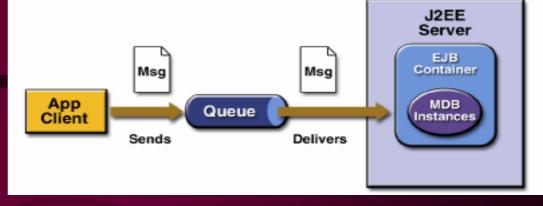
「選手テーブル」が関係する CMR Field

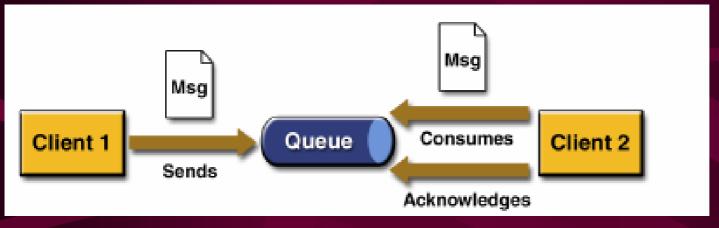
```
// テーブル間の関係を表現している、cmrフィールド teams
// を定義するSetter/Getterのペア
// この選手が所蔵するチーム(複数ありうる)の情報
// このcmr teamsは、EJB-QLのIN operatorで、IN(p.teams)
// の形で使われる
                                      CMR Field
public abstract Collection getTeams();
public abstract void setTeams(Collection teams);
// セレクト・メソッド
public abstract Collection ejbSelectLeagues(LocalPlayer player)
  throws FinderException;
public abstract Collection ejbSelectSports(LocalPlayer player)
  throws FinderException;
       teamId
                    name
```

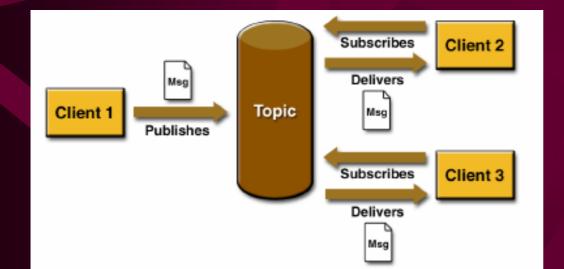
JMSメッセージングの導入

J2EE1.3

省略します。







3. J2EEとWebサービス / Grid

- J2EE1.4でのWebサービスの導入
- SOAP-RPCからJAX-RPCへ
- Endpointインターフェースを持つ Session Beans
- J2EE1.4 Webサービスの利用イメージ
- J2EE1.4とEoD: Java Server Faces
- J2EE1.4 LJAIN SLEE
- GridとWebサービスの接近
- GridとWebサービスの統合-- OGSIからWS-RFへ --

J2EEへのWebサービスの導入

J2EE1.4

J2EEとWebサービスとの統合の課題

Web層でJ2EEとWebサービスとを統合することはそれほど難しくはない。問題はEJB層。

EJB層のEntityビーンもSessionビーンも、コンテナの外部とは、基本的にはRMIを使って通信しなければならない。

一方、Webサービスは、SOAPのプロトコルを 使わなければならない。

SOAP-RPCからJAX-RPCへ

JAX-RPC = RMI / SOAP



Rahul Sharma

JAX-RPC の特徴

- JavaとWSDLの対応付け
- Javaの型とXMLの型の対応付け
- JavaでのWebサービスの記述
- 多様なクライアントモデル

Java Remote Interface WSDL

WSDL **→** Java クラス群

JAX-RPC

Java Remote Interface → WSDL WSDL → Java クラス群

Java Interface から、WSDLを生成する WSDLから、Javaクラスを生成する

WSDLタグ	対応して生成されるファイルの種類	
portType	サービス・エンドポイント・インターフェース	
binding	Stub クラス サービス実装クラス	
service	サービス·インターフェース サービス·ロケータ	

JAX-RPC WSDL2Javaコマンドで 生成されるファイル / メソッド達

WSDLタグ	生成されるファイル名	例
portType	portType タグの name 属性 + ".java"	Hello.java
binding	binding タグのname 属性 + Stub.java"	HelloBindingStub.java
	binding タグのname 属性 + "Impl.java"	HelloBindingImpl.java
service	service タグのname 属性 + ".java"	HelloWorld.java
	service タグのname 属性 + "Locator.java"	HelloWorldLocator.java

WSDLタグ	生成されるメソッド名	例
portType	portTypeタグのoperationタグのname 属性	sayHello
binding	binding タグのoperationタグのname 属性	
service	"get" + serviceのportタグのname 属性	getHello
	"get" + serviceのportタグのname 属性	

サービス定義インターフェース Hello.java

```
public interface Hello extends java.rmi.Remote {
   public String sayHello(String name) throws
        java.rmi.RemoteException;
}
```

サービス実装クラス HelloImpl.java

```
public class HelloImpl implements Hello{
   public String sayHello(String name) throws
        java.rmi.RemoteException {
     return "ServiceImpl was re-defined by " + name + "!";
   }
}
```

サービス・インターフェース HelloService.java

```
public interface HelloService extends javax.xml.rpc.Service {
   public String getHelloAddress();
   public Hello getHello()
        throws javax.xml.rpc.ServiceException;
   public Hello getHello(java.net.URL portAddress)
        throws javax.xml.rpc.ServiceException;
}
```

WSDL service Element

```
<service name="HelloService">
  <port name="Hello" binding="tns:HelloBinding">
        <soap:address
        location="http://localhost:8080/axis/services/Hello" />
        </port>
    </service>
```

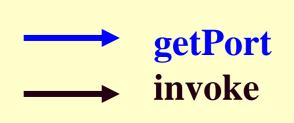
サービス・ロケータ HelloServiceLocator.java

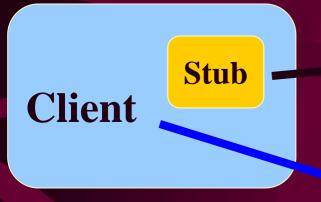
```
public class HelloServiceLocator
 extends org.apache.axis.client.Service
 implements HelloService { サービス・インターフェースを実装
 public Hello getHello()
     throws javax.xml.rpc.ServiceException {
 public Hello getHello(java.net.URL portAddress)
     throws javax.xml.rpc.ServiceException {
              サービス・インターフェースがコンテナへの
                     インターフェースを提供する
```

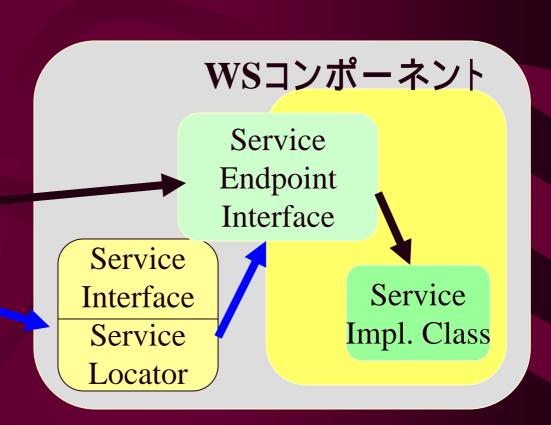
クライアント・プログラム Main.java

```
public class Main {
  public static void main (String[] args) throws Exception {
     Hello port = new HelloServiceLocator().getHello();
     try {
       String str = ((HelloStub) port).sayHello("Fujio");
       System.out.println(str);
     } catch (java.rmi.RemoteException re) {
       System.err.println("Remote Exception caught: " + re );
```

JAX-RPCがWSDLから生成する クラスとコンテナ







Webコンテナ

Endpointインターフェースを持つ Session Beans (EJB2.1)

- (Local)Homeインターフェースを持たず、
- EJB(Local)Objectを継承した、Local/Remoteインターフェースを持たない。

Serviceインターフェースを拡大したServiceインターフェースをもち、

直接、Remoteインターフェースを拡大した Endpointインターフェースをもち、

そのEndpointインターフェースを実装したクラスを持つ

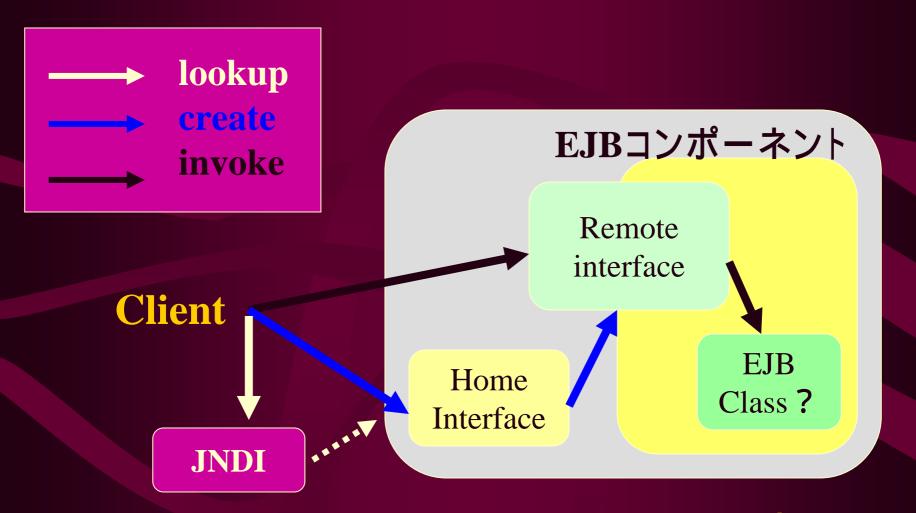
Endpointインターフェースを持つ Session Beans (EJB2.1)

```
public Interface BookPriceService extends
      javax.xml.rpc.Service{
 public BookPrice getBookPrice( )
    throws RemoteException;
public interface BookPrice extends
       javax.rmi.Remote {
 public String getBookPrice(String isbn)
    throws javax.rmi.RemoteException;
public class BookPriceWS implements
       BookPrice, javax.ejb.SessionBean {
 public float getBookPrice(String isbn){....}
```

通常のSession Beans

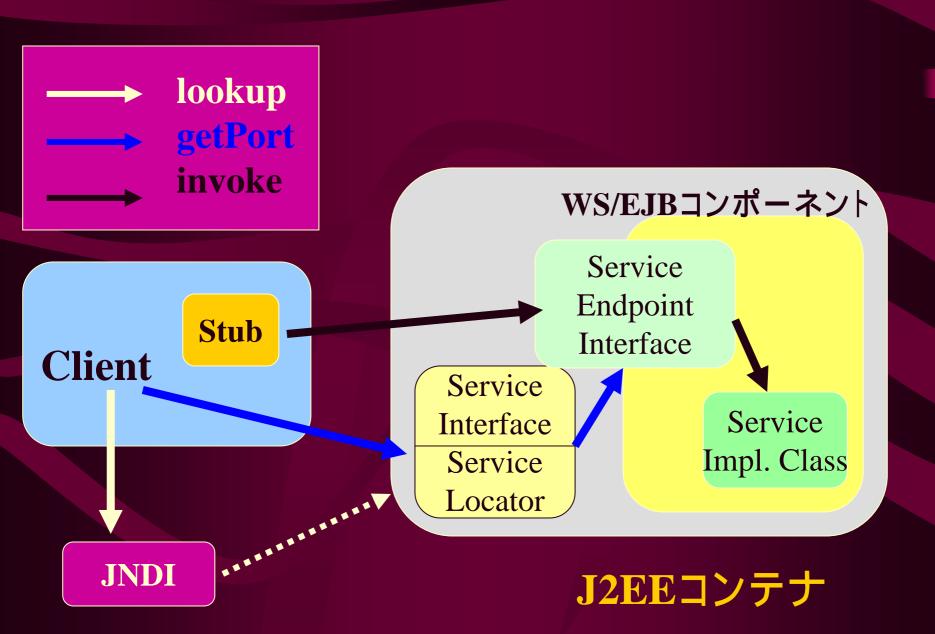
```
public Interface HelloHome extends
      javax.ejb.EJBHome {
 public Hello create( )
    throws RemoteException, CreateException;
public interface Hello extends
       javax.ejb.EJBObject{
 public String sayHello(Stringname)
    throws javax.rmi.RemoteException;
public class HelloBean implements
       javax.ejb.SessionBean {
 public String sayHello(String name) {....}
```

Clientから見たJ2EEのコンテナと EJBの三つの定義ファイル



EJBコンテナ

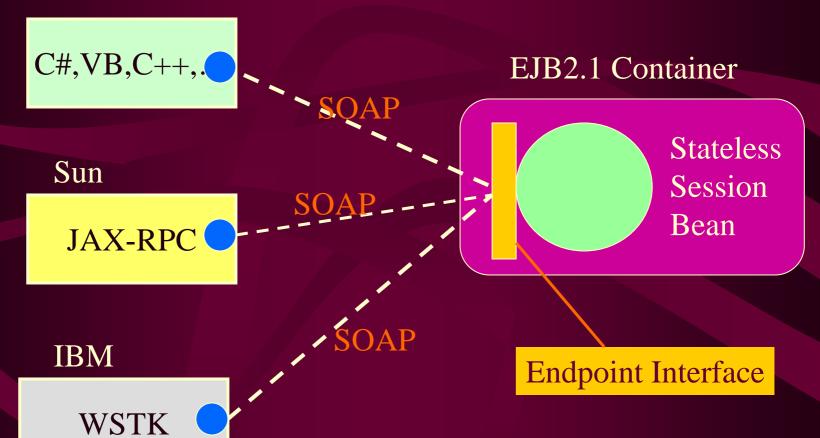
J2EE1.4のWebサービス対応



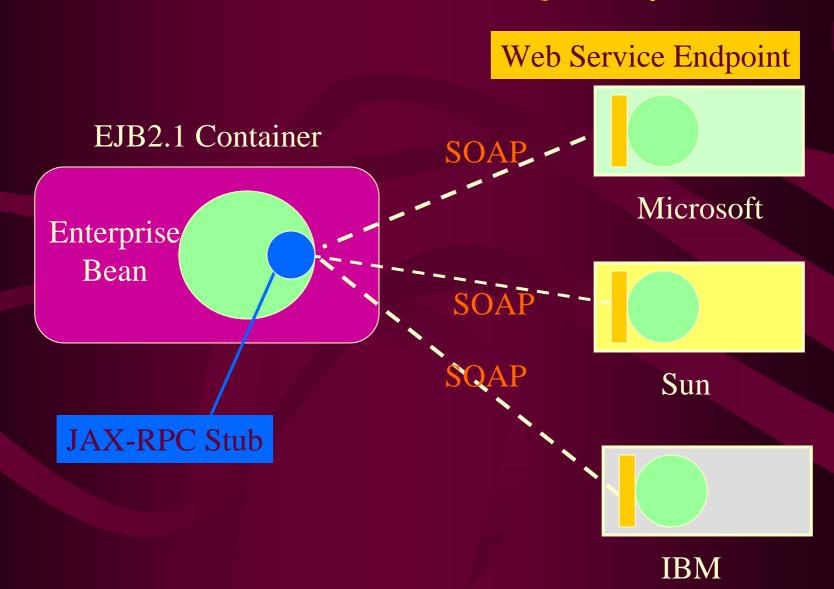
J2EE1.4 Webサービスの利用イメージ

SOAP互換であれば、誰でも、 セッション・ビーンのメソッドを呼び出せる

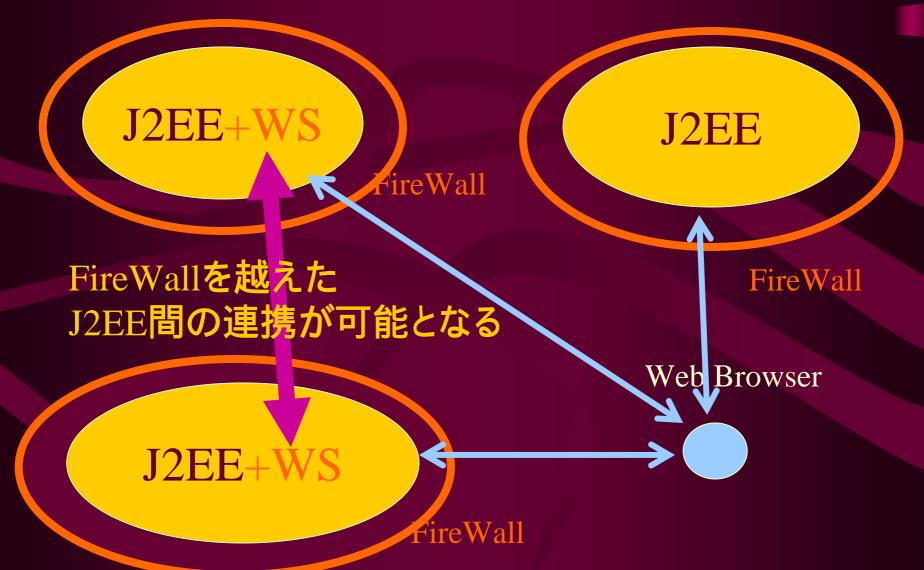
Microsoft .NET



J2EEのビーンのJAX-RPCのStubから どんなWebサービスも呼び出せる



FireWallを越えたシステム間の連携 Enterprise Gridの基礎

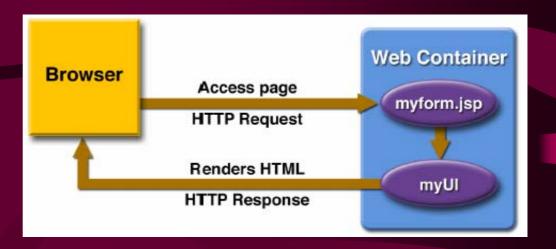


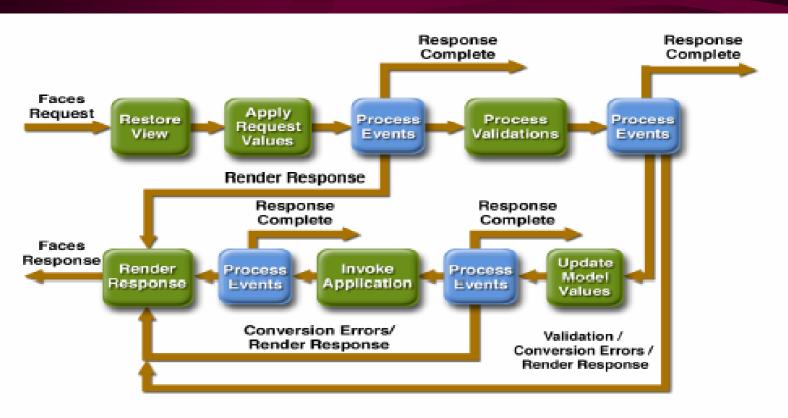


Craig R.McClanahan

J2EE1.4 Ease of Development: Java Server Faces

省略します。

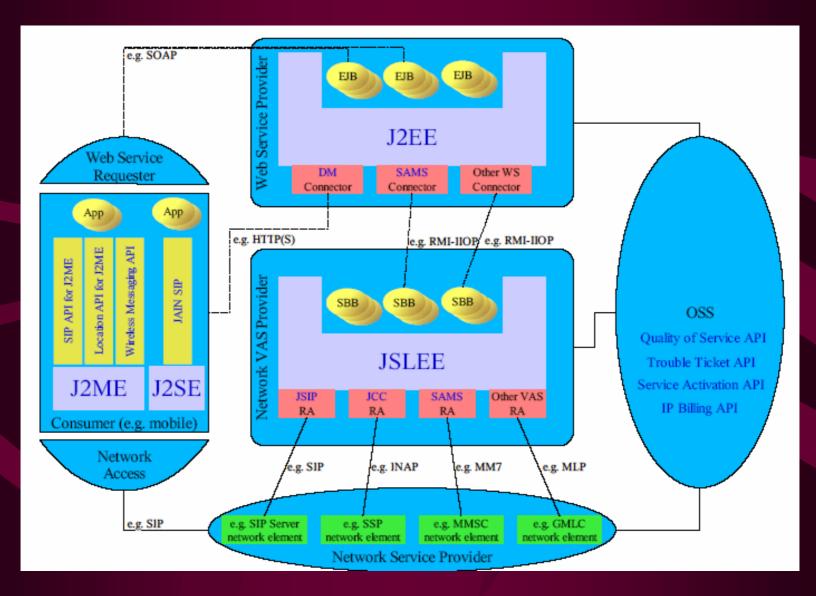




J2EE1.4 L JAIN SLEE

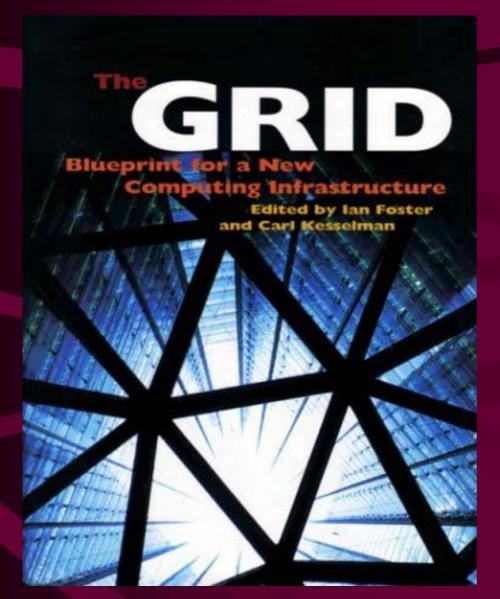
(Service Logic Execution Environment)

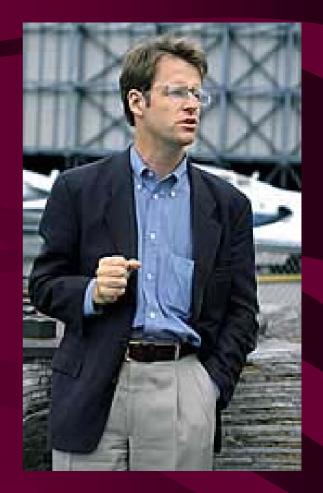
省略します。



GridとWebサービスの接近

GGF / Globus





Ian Foster

1998年

The Grid: Blueprint for a New Computing Infrastructure

"The Physiology of the Grid"

http://www-nix.globus.org/ogsa/docs/alpha/physiology.pdf 2002/06/22

GridへのWebサービスの全面的な導入

この論文が画期的だったのは、Gridサービスの 実現に、e-Businessの世界で急速に標準的な 地位を占めつつあるWebサービスを利用する ことを明確に宣言したこと。

"The Physiology of the Grid"

http://www-nix.globus.org/ogsa/docs/alpha/physiology.pdf 2002/06/22

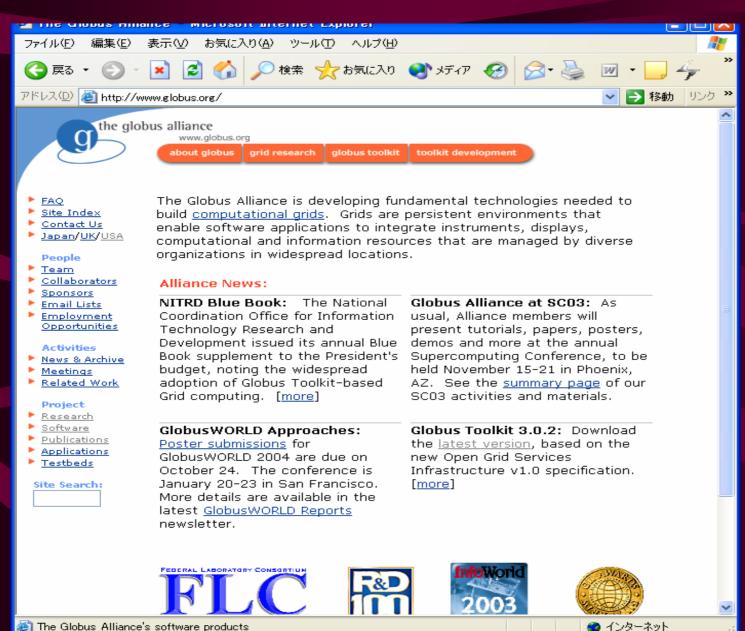
OGSAの提案

GridとWebサービスの提携と、それによる双方の能力の拡大を、"Open Grid Services Architecture (OGSA)"と呼ぶことが提案される。

I.FosterによるGridの定義

・ネットワーク上のノードを....集中 管理するのではなく、異なった管理の もとにあるリモート・リソースやリ モート・ユーザを、ネットワーク上で 統合し協調させることを目指したシス テムをGridと呼ぶ

Globus Toolkit 3.0



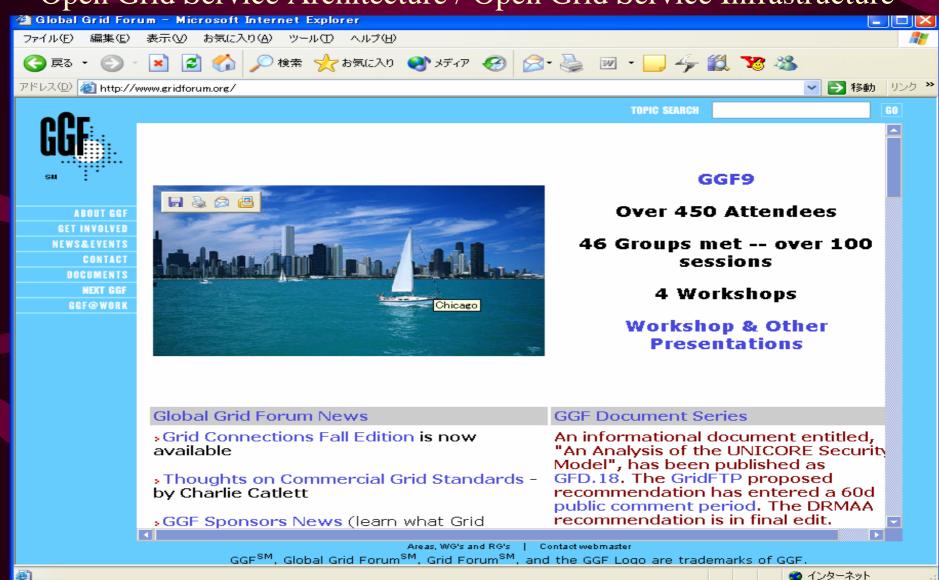
GT2 から GT3

Globus / GT3でのGrid概念の新しさ

- マシンを、PlatformやOSの違いを超えて、 ネットワーク上で、結合・連携させる。
- その結合・連携には、汎用的なネットワークのリソースが利用可能なWebサービスを利用して、マシンを「疎結合」で結ぶ。
- 従来のコンピューティング・パワー指向 のGridに対して、リソース共有を指向す るGrid

GGF OGSA/OGSI

Open Grid Service Architecture / Open Grid Service Infrastructure



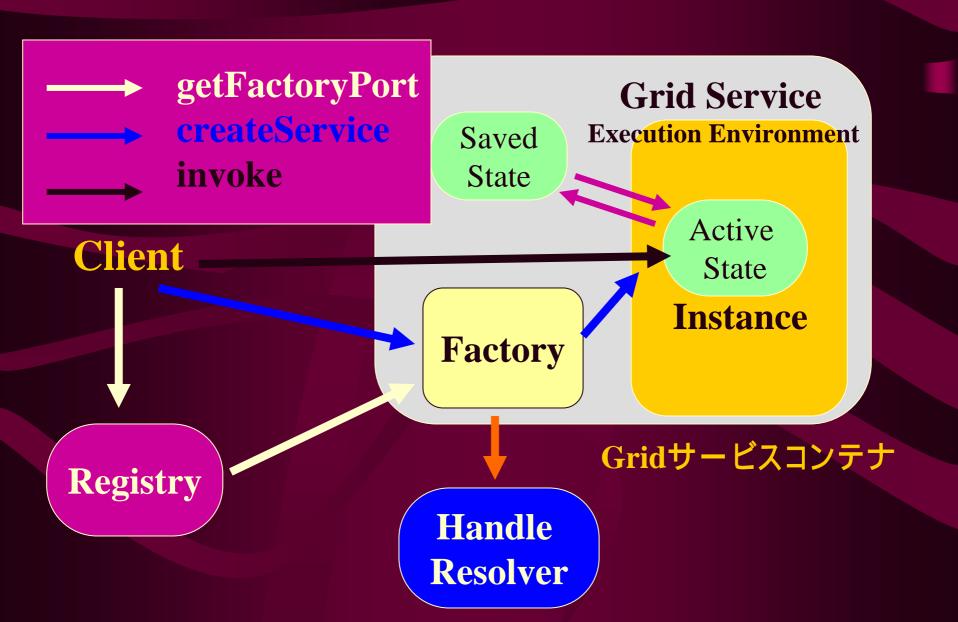
GGF / OGSAの設計目標

- アプリケーションのデザインやコードの再利用を容易にすることができるように、様々な状況の元でも、標準的な方法で共通に利用されるうるソフトウェア・コンポーネントをつくること。
- 上位のサービスが、下位のサービスから構成できるように、コンポーネントの組み合わせを容易にすること。

サービス志向アーキテクチャ

- すべての要素がサービスから構成されているようなアーキテクチャを、「サービス志向アーキテクチャ」と呼ぶ。
- ●このアークテクチャ上では、全ての operationは、メッセージ交換の結果と して理解される。

Gridサービスコンテナ



J2EE,Web Service, Grid(OGSI) の コンテナ/コンポーネントの比較

	J2EE	Web	Grid Service
	JZEE	Service	OGSI
Containerの 発見	JNDI	UDDI / WSIL	Registry
Containerの インターフェース	Home Intf.	Service Intf.	Factory
Componentの 生成	create	get <port></port>	createService
Componentの インターフェース	Remote Intf.	Remote Endpoint	Handle / Reference

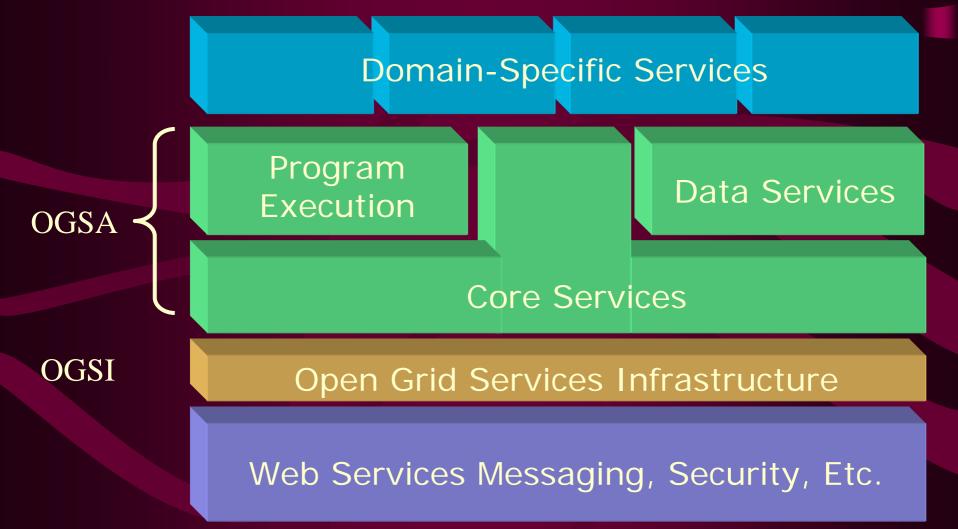
GridとWebサービスの統合 OGSIからWS-RFへ

GridとWeb Servicesは接近してきた。



しかし、すれ違って別の道を 進む可能性が出てきた。

OGSA / OGSI



OGSA / WSRF

Domain-Specific Services

Program Execution

Data Services

Core Services

WSRF

OGSA

WS-Resource Framework

Web Services Messaging, Security, Etc.

Grid と Web Services は WSRFで、一体化する。

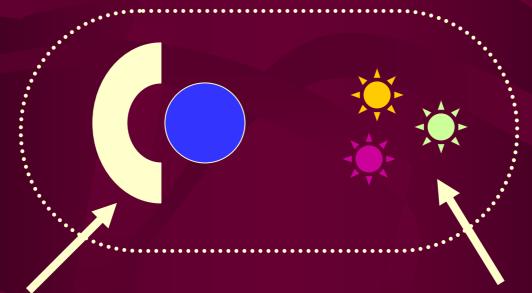


WSRFの定義は、GridとWebサービスのコミュニティが、 共通の土台の上に前進できるということを意味している。

WS-Resourseとは何か?

「状態を持たないWebサービス」と 「状態を持つリソース」を 分離したうえで、組み合わせたもの

WS-Resourse



状態を持たないWebサービス

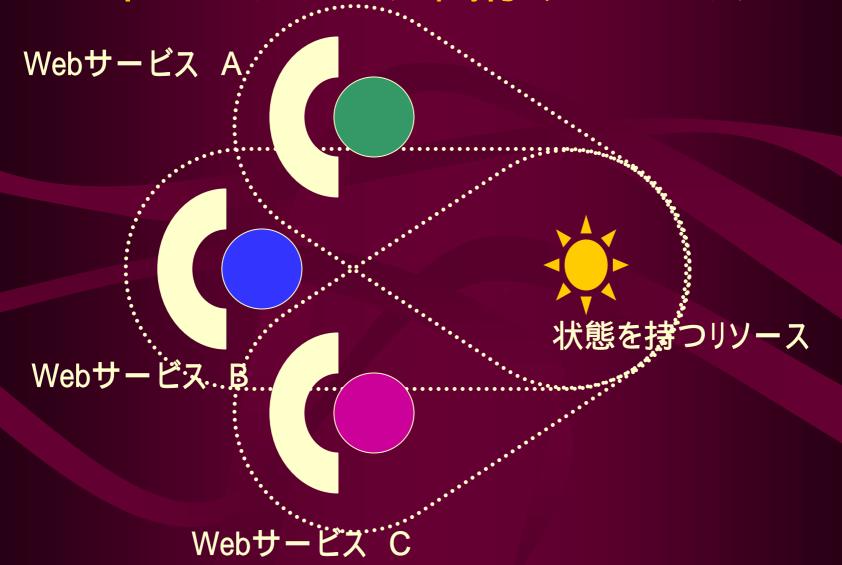
状態を持つリソース





状態を持つリソース C

複数のWebサービスが 単一のリソースと関係するケース

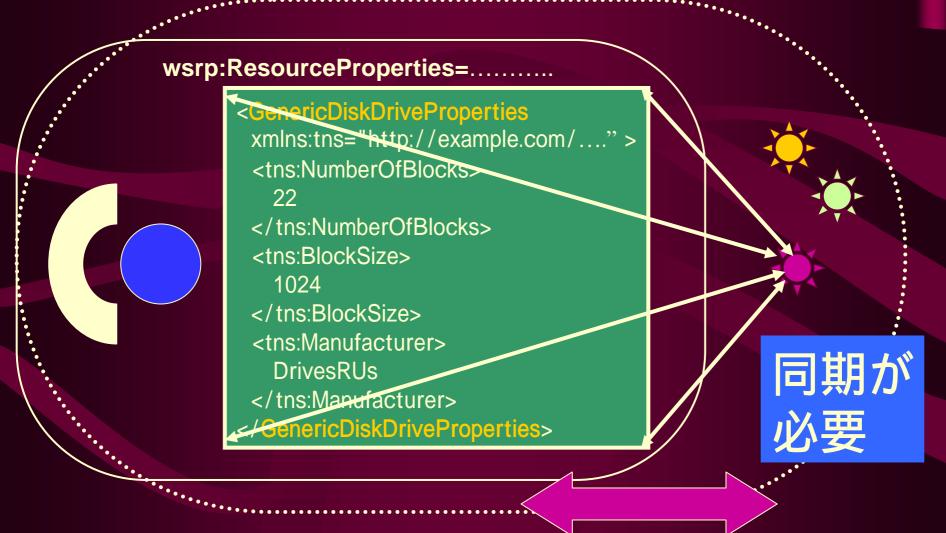


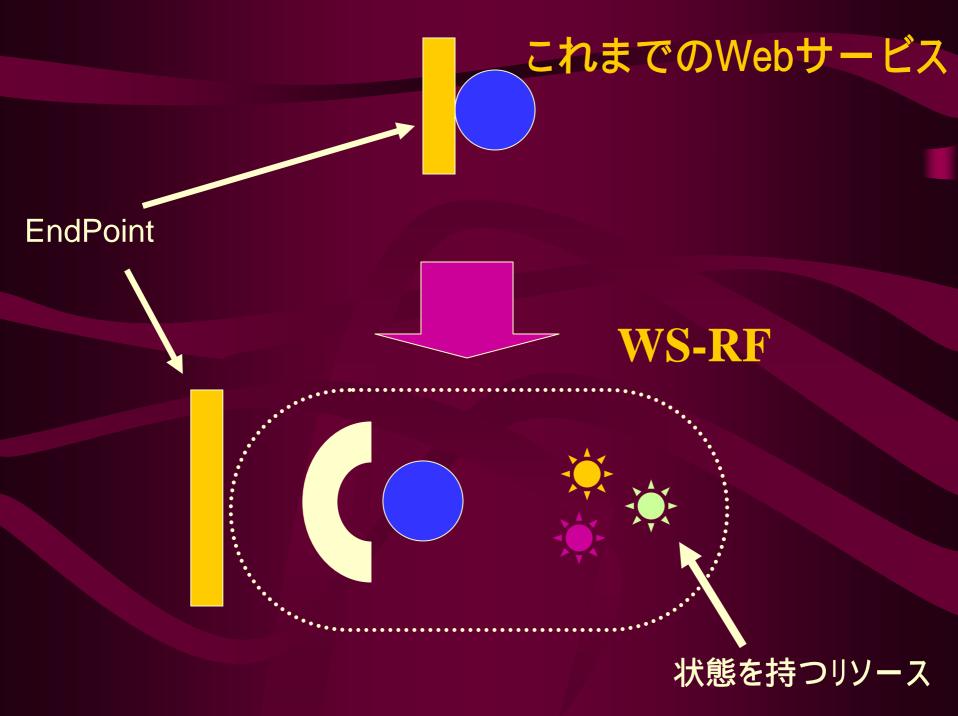
WS-Resourseの「状態」としての WS-Resource Properties Document

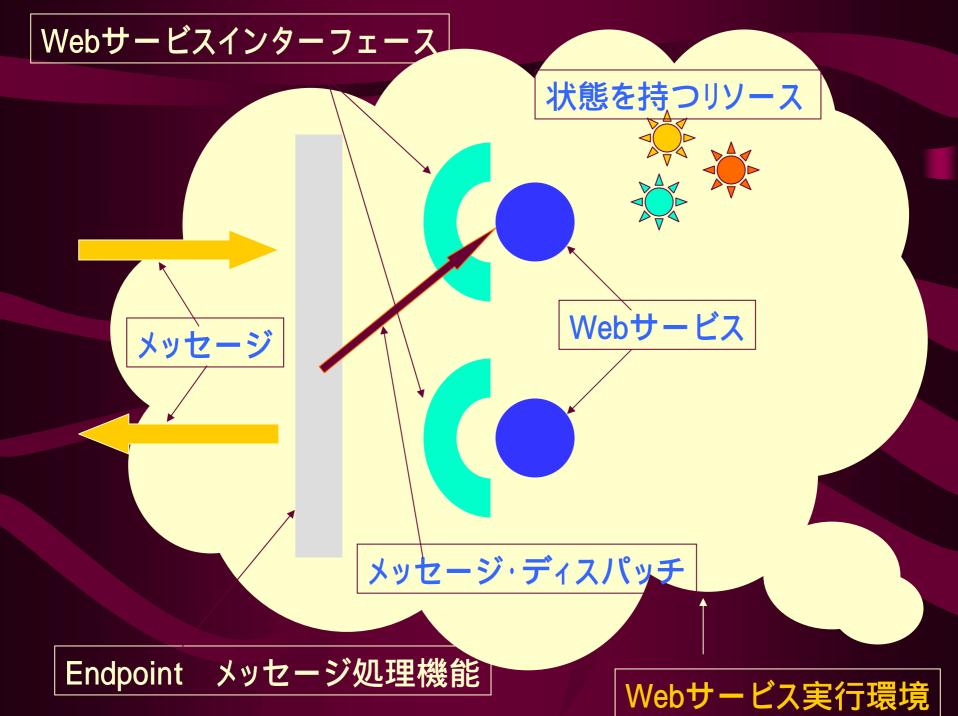


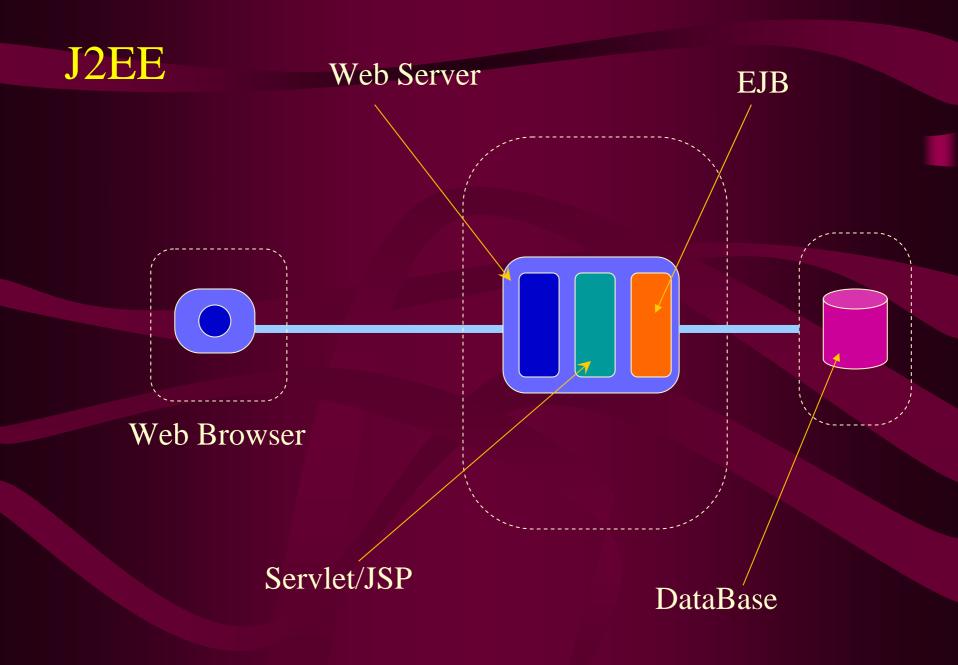
<!-- Association of resource properties document to a portType -->
<wsdl:portType name="GenericDiskDrive"
wsrp:ResourceProperties="tns:GenericDiskDriveProperties" >

Statefull-Resourseの「Projection」としての WS-Resource Properties Document









FactoryによるWS-Resourceの生成は、 EndpointReferenceを返す

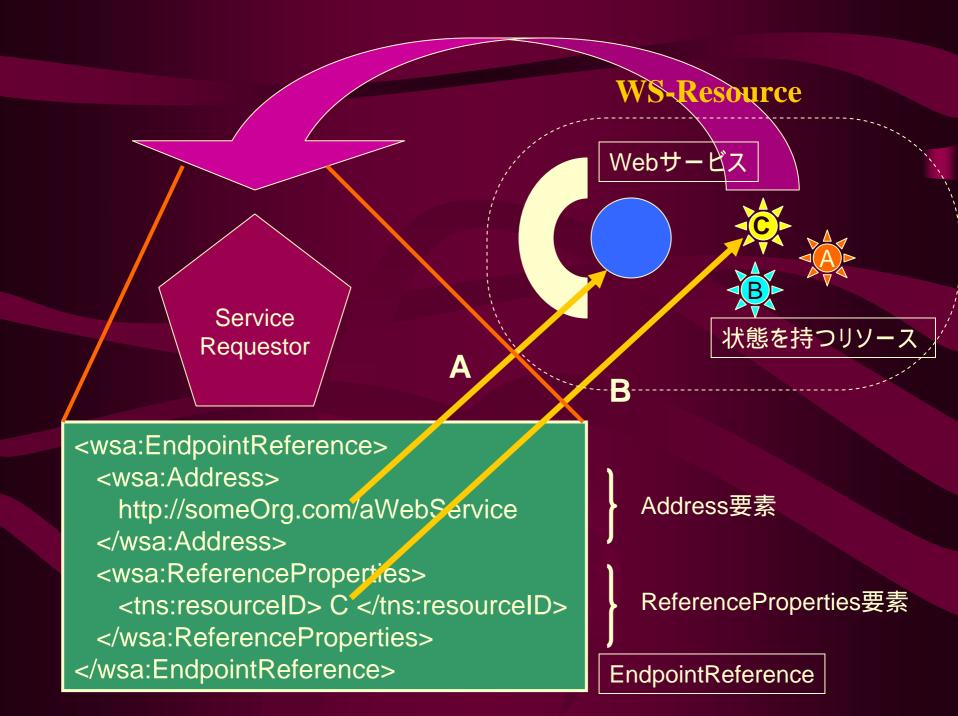
WS-Resource

WS-Resource Factory

Service Requestor



createService



WS-Resource-qualified EndpointReference & WS-Resource Context

```
<wsa:EndpointReference>
 <wsa:Address>
   http://someOrg.com/aWebService
 </wsa:Address>
 <wsa:ReferenceProperties>
   <tns:resourceID>
    </wsa:ReferenceProperties>
</wsa:EndpointReference>
```

A Address Component

Reference Property Component

WS-Resource context

4. J2EEとビジネスプロセスの統合 J2EE / Webサービス / Grid

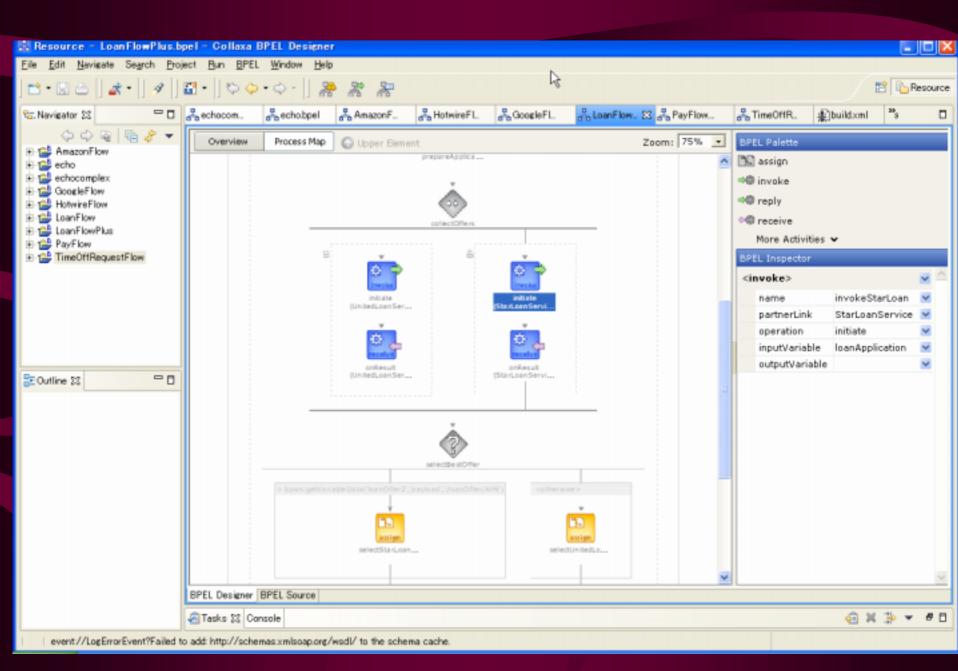
- Webサービスとビジネス・プロセスの統合
- Business Processの記述
- BPEL4WS
- J2EEとビジネスプロセスの統合
 - -- Java Business Integration **JSR208** –

まとめ

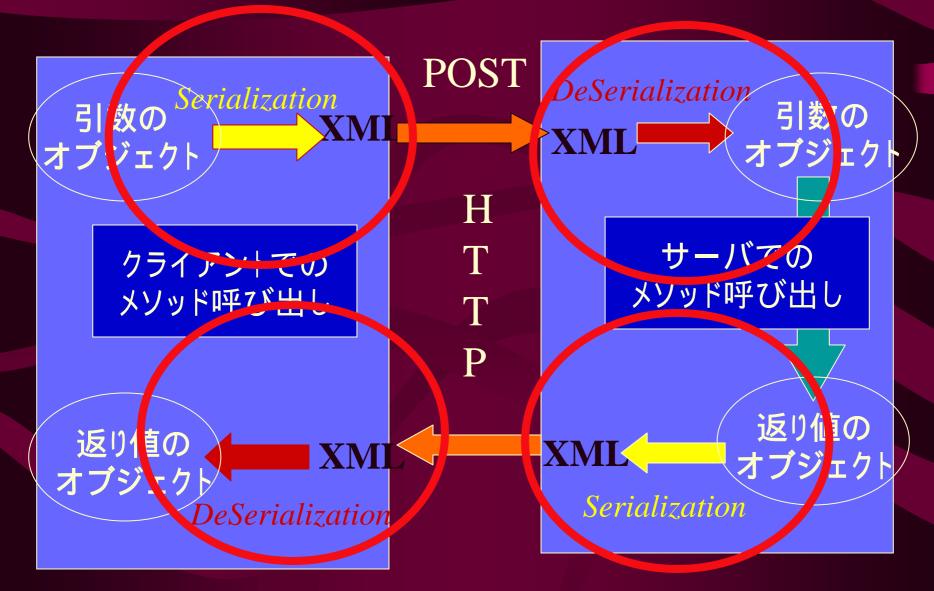
Webサービスと ビジネス・プロセスの統合

Webサービスの「統合」の技術的背景

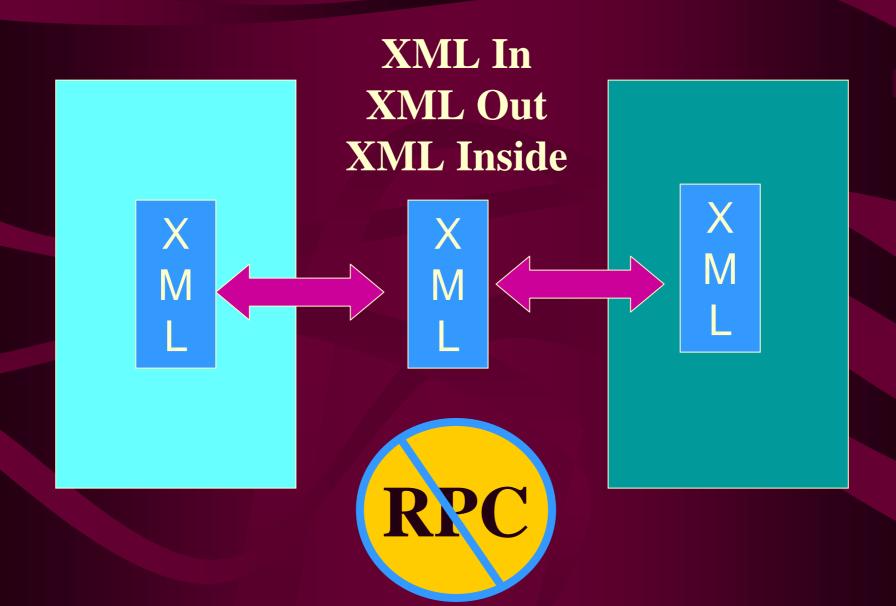
- ●テクニカルには、Webサービス間の複雑な相互関係を記述する必要が生まれている。
- Webサービスのアーキテクチャが、単なる RPCを超えて発展しつつあること
- Document centricな処理モデルが、信頼性の高い疎結合の「ビジネス統合」のメカニズムとして登場しつつあること



RPC Java<->XMLマッピング



Document Centric



Business Processの記述

Orchestration & Choreography

Web Services Orchestration

- ➤Webサービスの相互作用の実行順序を含む
- ▶プロセスのフローを記述する
- ▶プロセスは、常に一つの主体によってコントロールされる

Web Services Choreography

- ▶パブリックなメッセージの交換に関連していて、 実行可能なプロセスには、直接関係しない
- ➤ 複数の主体を含んだメッセージのシーケンス を跡付ける

Orchestration: BPEL4WS

Business Process Execution Language for Web Services

IBM, Microsoft, BEAが仕様策定

Choreography: WSCI

Web Services Choreography Interface

Sun, SAP, Intalio, BEAが仕様策定



OASIS Web BPEL TC

IBM, Microsoft, BEA, Oracle, Sun, SAP

BPEL4WS

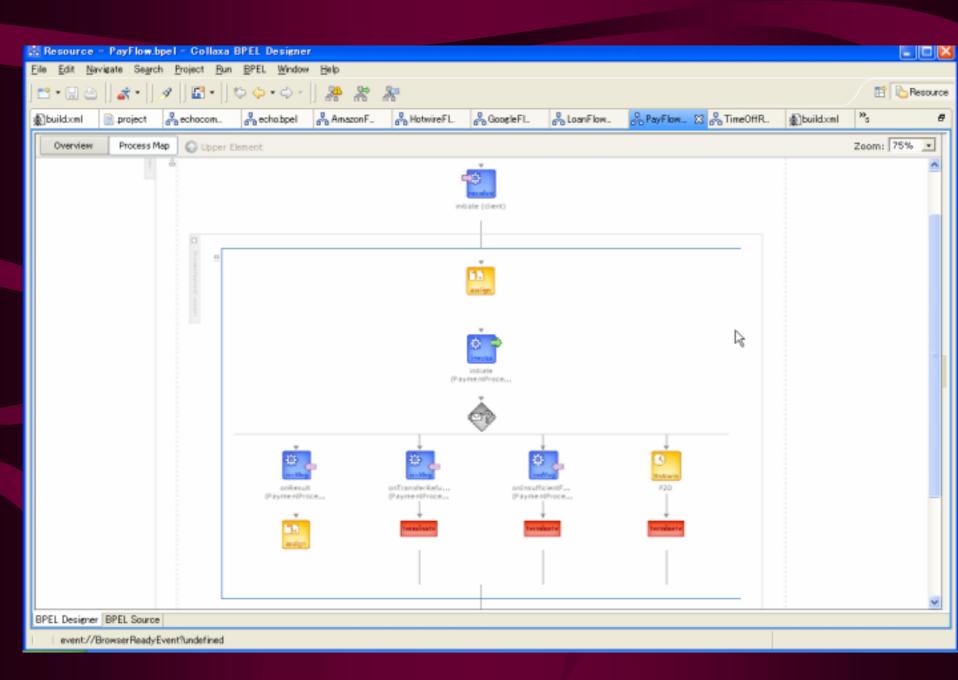
Business Process Execution Language for Web Services

http://www-106.ibm.com/developerworks/library/ws-bpel/

BPEL4WSとは?

●複数のWebサービスをいかに結合して新しい Webサービスを提供するかを規定する

- ●同じ言語が、実行可能なプロセスと抽象的なプロセスの双方を定義するために定義されている
 - 実行可能なプロセスは、ワークフローを実行するの に必要なすべてのものを記述している
 - ●抽象的なプロセスは、メッセージ交換に基づいた ワークフローに必要とされる観察可能な振る舞いを 記述する(ビジネスパートナー間の契約の妥当性を チェックすることが出来る)



BPEL4WSとは?

●基本的なWebサービスの活動をサポートする: invoke, receive, reply

● Implicit lifecycle: ワークフローのインスタンスはメッセージが「スタート」とマークされワークフローエンジンに到達した時に生成される

BPELのActivityの例

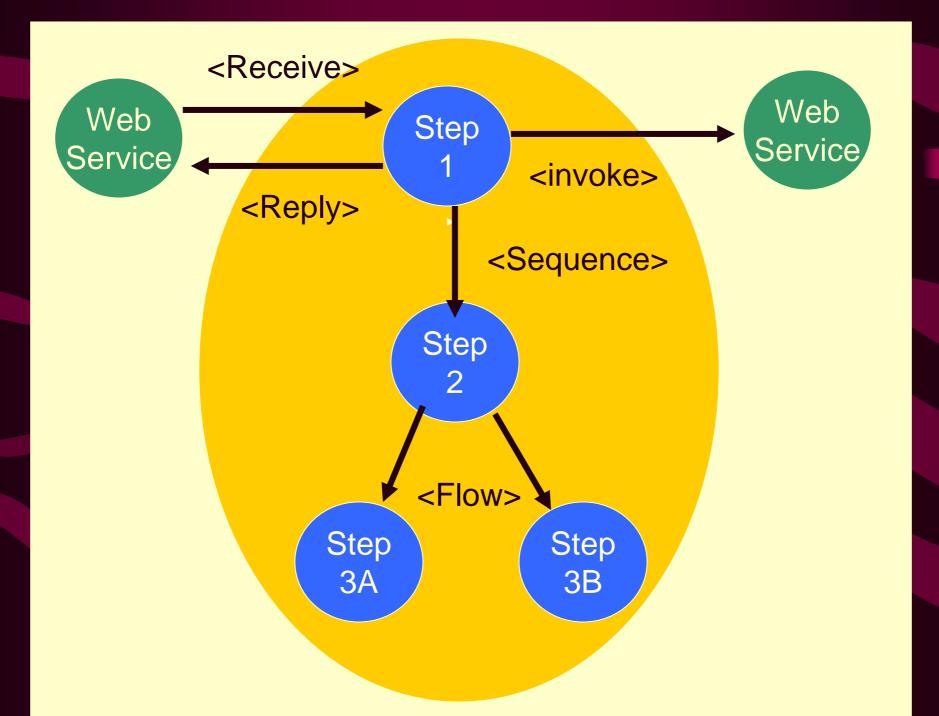
Primitive Activities

```
<receive> パートナーからのメッセージを待つ
<invoke> メッセージを発する
<reply> パートナーにメッセージを返す
```

Structured Activities

```
<sequence> 順番に実行する
<flow> 並行して実行する
<pick> メッセージに応じて一つを実行する
```

.



```
cess>
 <!- Definition and roles of process participants -->
 <partnerlinks> ... </partnerlinks>
 <!- Data/state used within the process -->
 <variables> ... </variables>
 <!- Properties that enable conversations -->
 <correlationSets> ... </correlationSets>
 <!- Exception handling -->
 <faultHandlers> ... </faultHandlers>
 <!- Error recovery - undoing actions -->
 <compensationHandlers> ...
  </compensationHandlers>
 <!- Concurrent events with process itself -->
 <eventHandlers> ... </eventHandlers>
 <!- Business process flow -->
                             BPEL Structure
   (activities)*
Inrocess
```

J2EEとビジネスプロセスの統合

Java Business Integration JSR208

N.Kassem TS3740.pdf
M.Hapner JA-SIG-12-08-Keynote.pdf
WhitePaper JBIwp70903.fm.pdf

Java Business Integration

- Java プラットフォームをSOAで拡大したもの
 - ◆サービス間の組み合わせ
 - ◆サービス内部の組み合わせ

● JBI アプリケーションは、統合コンポーネント の組み合わせ

●標準的なパッケージングとデプロイのモデル

Java Business Integration

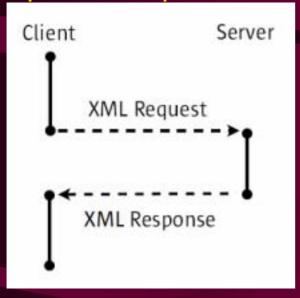
プラットフォームを拡大するための一群のSPI(シ ステムプログラムインターフェース)の集まり

- ビジネス・プロセス・エンジン (Machine SPI)
 - ●ビジネス・プロセス・マシンの為の標準的な実行環境 を整備する
- バインディング・フレームワーク(Binding SPI)
 - ◆外部のサービスとデータを交換するための拡張可能 なプロトコルバインディングのセットをコンテナに提供 する
 - ●メッセージをプロトコルバインディングに関連付ける

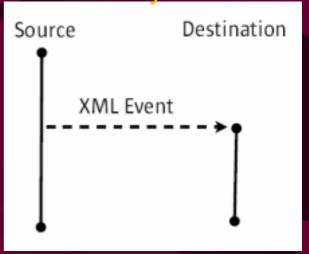
J2EE with JBI

- 拡大可能な統合プラットフォーム
- 多くのコンポーネント・モデル
- 多くのバインディング
- すべてがWSDL MEPsと、組み合わせのメ カニズムを共有する

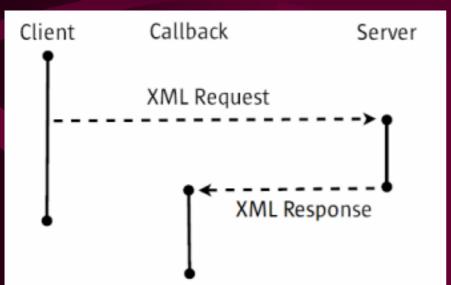
Request-Response MEP



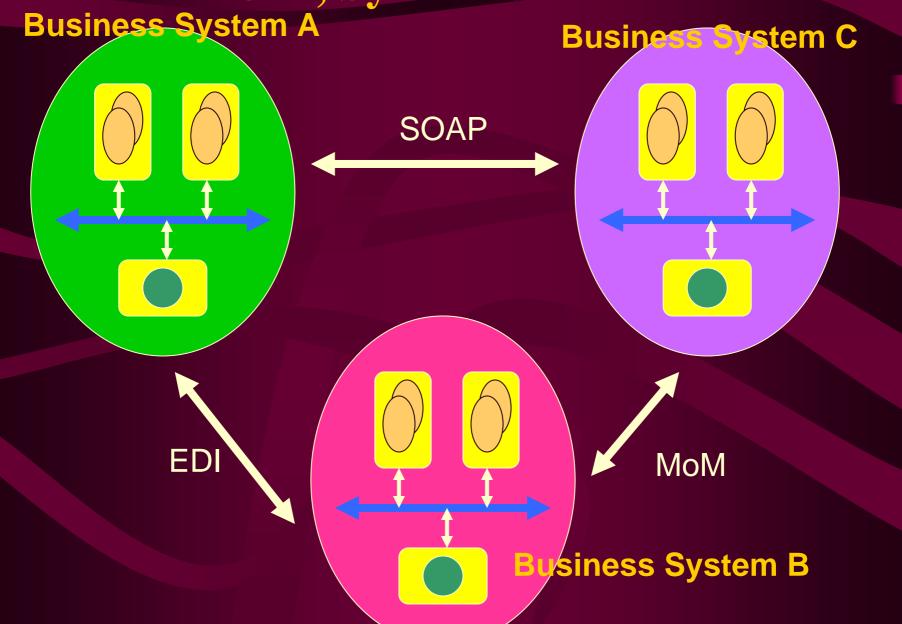
One-Way MEP



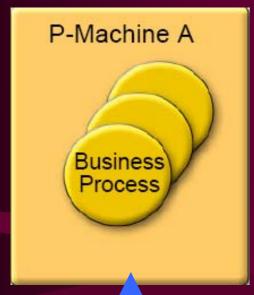
Callback MEP

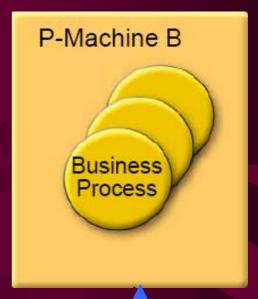


WSDL Message Exchange Patterns JBI, System View

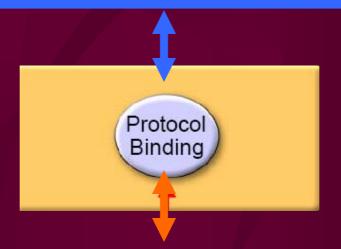


JBI, Process View





Normalized Message "Bus"

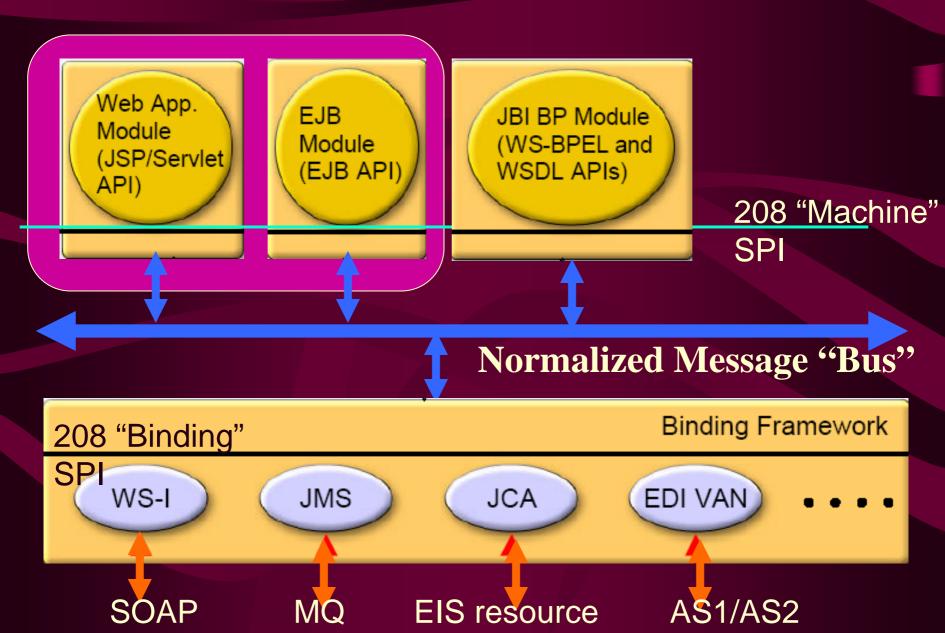


Binding Framework

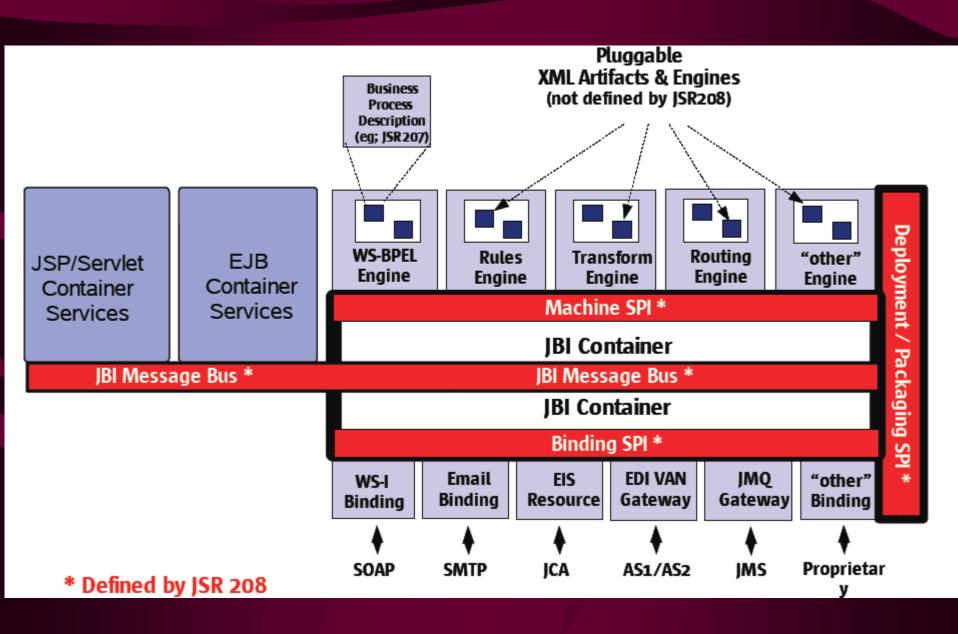
Business Process Machines (BPM)

- BPMは、「ビジネス・プロセス・インスタンス」をサポートし、その生存サイクルを管理する
- BPMは、「正規化されたメッセージ」のレベル で機能する
- 「正規化されたメッセージ」という概念は、ビジネスメッセージを効率的に処理する上で重要な役割を演ずる
- JBIは、BPMと正規化されたメッセージバスとの間の取り決めを形式化したもの

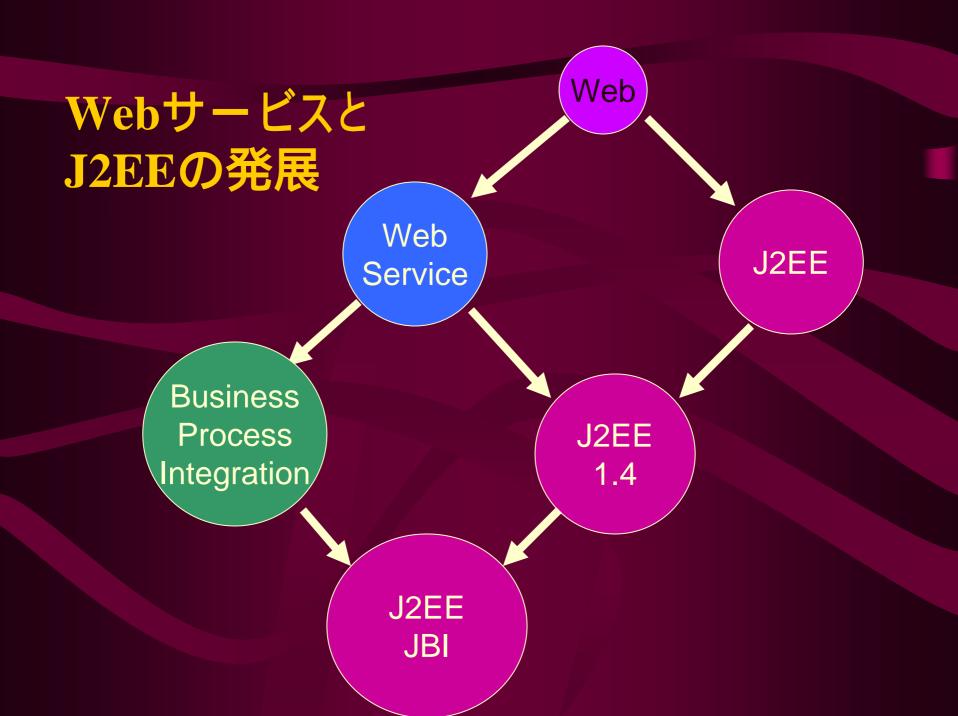
JBI and J2EE

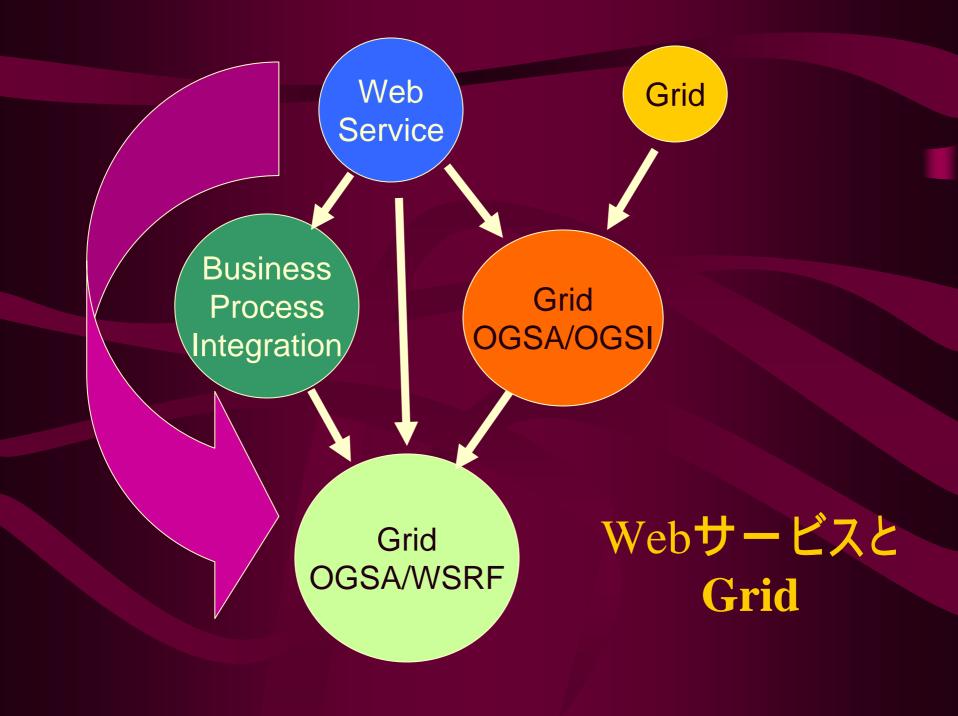


JBI Container Model



まとめ





Grid,WebサービスとJ2EE

